

本体セット



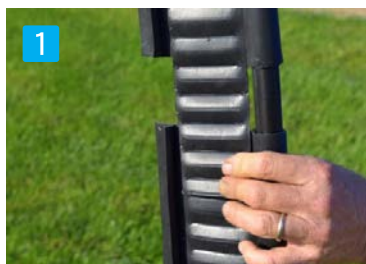
セット内容 本体×2本 ストレートジョイント×2個

別売りオプション



ストレートジョイント

90度コーナー材



1 本体にストレートジョイントを差し込みます。



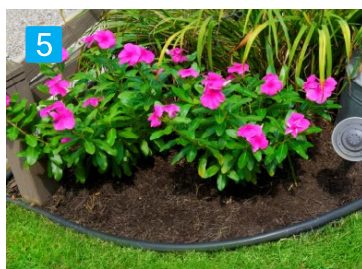
2 差し込んだ状態



3 根切りを行います。



4 エッジマイスターを設置します。

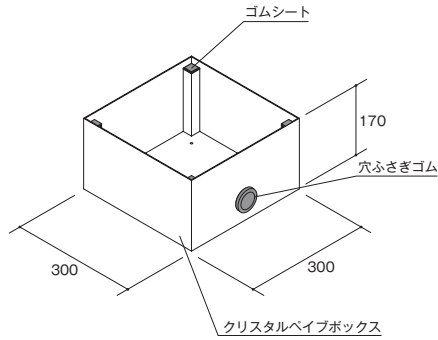


5 土を埋め戻し転圧をかけ設置完了です。



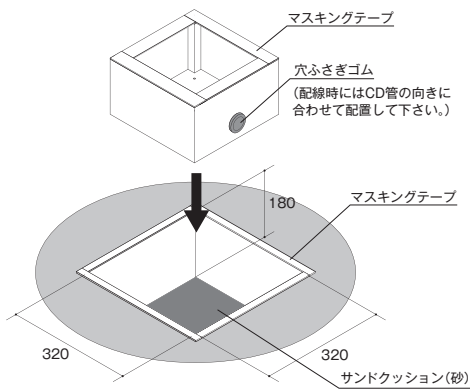
直角の箇所には別売りオプション「90度コーナー材」をご利用ください。

- 1 ゴムシート4ヶ所、穴ふさぎゴムが取付けられているクリスタルペイブボックスを確認します。

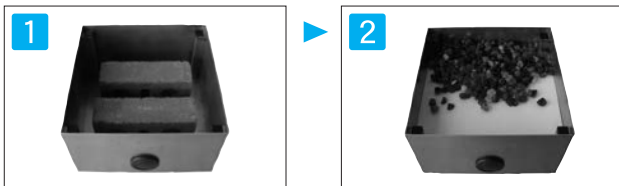


- 2 縦・横320mm、深さ180mmの角穴を用意します。

- 3 下記の図のように、マスキングテープを、製品、角穴に張ります。角穴の底面に10mmの高さまでサンドクッション（砂）を入れて、その後、クリスタルペイブボックスごと角穴に配置します。



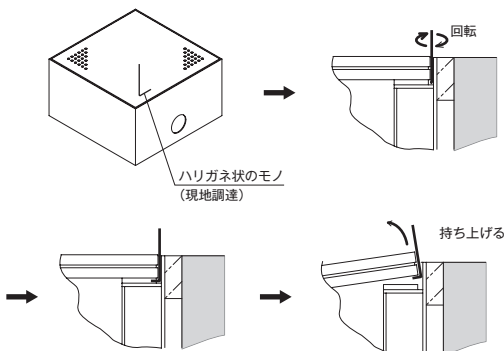
■化粧砂利使用参考例（ガラス色：クリア）



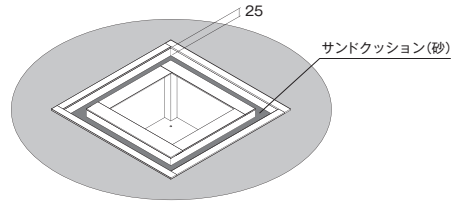
ボックス内部にレンガなどの高さ調整材を置きます。

仕切り材（市販品）を敷き、化粧砂利を適量入れます。

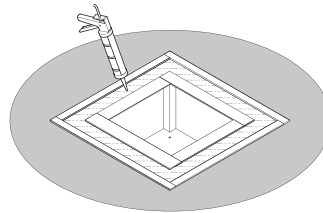
■メンテナンス時の取り外し方



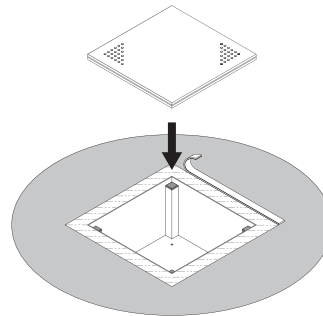
- 4 地面から深さ25mmまで、サンドクッション（砂）を全周に引き詰めます。



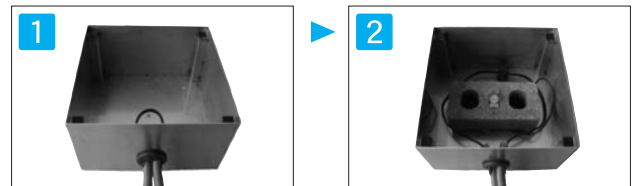
- 5 残りの部分に、コーキングを行います。



- 6 コーキングが乾いた後に、マスキングテープをはがします。クリスタルペイブボックス内部へクリスタルペイブを配置します。



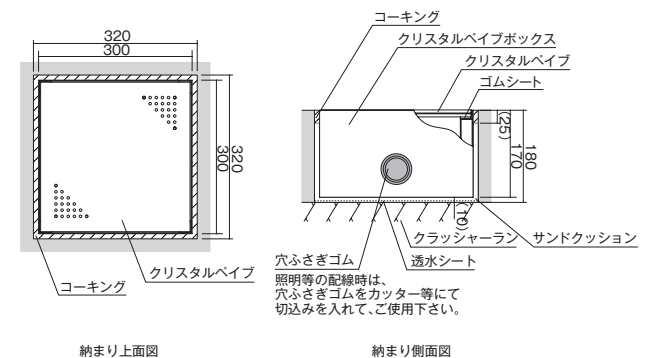
■LEDライト使用参考例（ガラス色：乳白）

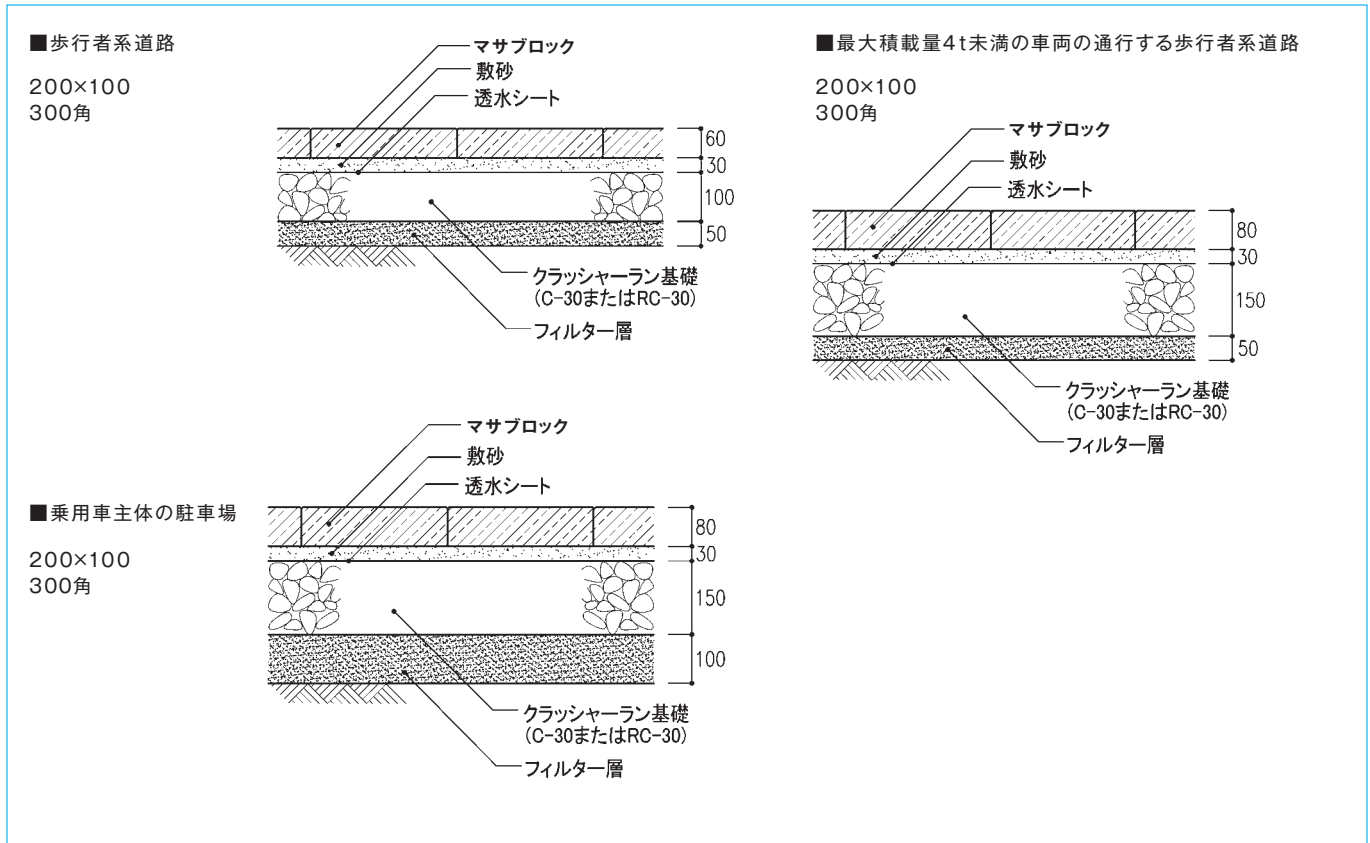


穴ふさぎゴムに切り込みを入れ、CD管を挿入し配線します。単体設置時のCD管は1本ですが、複数または連結設置時は2本になります。

使用する照明をボックス内部に設置します。

■納まり図・寸法図





マサブロック施工フロー例

- 1 路床・路盤の確認**
支持力・平坦性・転圧状況を確認し、必要ならば調整を加えます。
- 2 レベル出し**
水糸などを張って、仕上がり位置を設定します。
- 3 敷砂の敷均し**
転圧後の厚さを30mmとすると、敷き均し時にはこれに通常15mm程度の余盛り厚を加えておきます。
- 4 舗装材料の敷設**
現場の条件に合わせて、敷き始めの基準点を設定します。一旦、既設ブロックに強く押しあて、垂直に下ろし、施工して下さい。
- 5 目地調整**
材料にあて木をして木槌で叩いたり、ドライバーやバール等で移動させたりして修正します。
- 6 端部の処理**
端部用のブロックを使用します。
使用できない場合は、カッティングして下さい。
- 7 転圧**
コンパクターにより、歩く速さで3回程度行います。
転圧できない箇所は、プラスチックハンマー等で叩きます。
- 8 目地詰め**
目地材を均一に撒き、目地の中に掃き込みます。
コンパクターにより振動をかけ、充填効率を高めます。
- 9 後処理**
材料表面に残った砂をきれいに掃き取り、仕上がり状況を確認して下さい。

マサブロック施工要領

- 1 路盤作り**
工事はまず路盤を作ることから始まります。
入念に転圧を行い、締め固めます。路盤表面に凹凸があると不陸の原因となります。
- 2 敷砂の敷込み**
使用する砂は、中目のものが最適です。
4～5cm 砂を敷き込んでから、水糸などでレベルを設定します。
次に敷きならし棒などを使って、レベルを合わせます。
砂層を平坦に保つことが肝心です。
- 3 マサブロックの敷込み**
それぞれの現場の条件に合わせて、敷き並べます。
この一列になったブロックを基準に、ブロックを並べます。端部には、端部用のブロックをお使い下さい。
- 4 スプリットカッターによる処理**
端部で端部用ブロックでは処理できない箇所は、寸法に合わせて、スプリットカッター等でカットし、敷き込みます。
- 5 転圧**
転圧機（コンパクター）で、入念に平坦仕上げを行います。
- 6 目地の砂詰め**
乾燥した細目の砂（珪砂）をホウキなどで目地に落とし込み、作業は完了です。
- 7 完成**

グラベルロック

施工要領

<グラベルロックを施工する必要な道具>

- * コテ(もしくは表面が平らなもの…木材、ブロック等)
- * プラ舟、バケツ(本品全量が入るもの)
- * 空容器(水量の目盛が有るもの、水量のわかるもの)
- * スコップ、シャベル、練りクワ(本品を練り込めるもの)
- * ビニールシート(冬場・夏場・降雨時)

<施工時主な注意事項>

- * 水量を守って下さい。(1袋に対しての水量は1.0ℓとなります。)
- * 満遍なく練り込めるように水は一度に入れず、数回に分けて徐々に加えて下さい。
- * ひび割れ防止のため、施工幅約4m毎に目地を入れて下さい。
- * 本製品の特性上、広い面積など数回に渡り施工する場合は色調など仕上がりに差が出ることがあります。予めご了承ください。
- * プラ舟、バケツ、コテなどの用具類は残材や汚れのない、綺麗なものを使用して下さい。

本製品の最低施工厚は3cmです。施工時の㎡あたりの使用目安は4袋となります。現場の広さに応じて材料を調達して下さい。



1

空練

雑草や石などを全て取り除き、土面を押し固めます。下地をしっかりと作ることで、美しい仕上がりととなります。本品をプラ舟、バケツ等にかけて空練を必ず行なって下さい。粒度分布がある為、均一に分散させて下さい。

- * 空練とは？…水を加える前に商品スコップ等にて良く混ぜ込む事。
- * 空練は満遍なく混ぜ込んで下さい。偏りがあると施工不良となります。



2

練上げ

空練を行なった後徐々に水を加え使い易い硬さまで練り上げて下さい。目安として1袋(12.5kg)に対しての水量は、1.0ℓです。水量に注意して下さい。水が多すぎると固まる成分が流れてしまい強度が落ちる事になります。逆に水が少なすぎると全体の固まりが悪くなり、強度にも影響が出てしまいます。施工面の仕上がりは粉っぽくなります。

- 全体に水分がゆき渡るまで良く練り込んで下さい。
- 季節によって硬化時間が異なりますので注意しながら施工して下さい。
- * 水量は適量に対して多くても少なくても施工不良となり、補修ができません。



3

敷均し、コテ押さえ

均一になるように敷き、コテで素早く伸ばします(表面に凹凸がなくなるように)。コテ押さえは充分に行なって下さい。コテ押さえが足りないと施工面が崩れたり欠けることがあります。角、端も充分にコテで押さえて下さい。

- * コテ押さえとは？…コテにて施工面を押える事。コテがない時は木材など表面が平らな物で可能です。



4

養生

施工後、ビニールシート等を掛けておきます(冬場・夏場・降雨時)。ビニールシートを掛けることにより表面が急速に乾燥するのを防ぎます。養生期間は約24時間で表面が固まれば歩行可能となります。

<水量が適量の仕上がり>



水量が
少ない



水量が
多い



水量が少なすぎると全体の固まりが悪くなり、強度にも影響が出てしまいます。施工面の仕上がりは粉っぽくなります。

水量が適量に対して多くても少なくても施工不良となり、補修ができません。

水量が多すぎると固まる成分が流れてしまい強度が落ちることになります。また、施工後の透水性が悪くなることもあります。

* 製品の特性上、「白華」が発生する場合があります。予めご注意ください。



<注意事項>

- * セメントが含まれております。湿気に弱いので開封後はお早めにお使い下さい。また、開封した物は全て使い切して下さい。
- * 施工時の気温、湿度によって施工後に表面が白くなる事がありますが品質、防草効果、強度に問題ありません。
- * 敷きながら商品が飛散しない様に注意して下さい。施工面の周辺は必ず養生し周辺に色移りしない様に注意して下さい。
- * 日当たりの悪い場所、水はけの悪い場所はコケが生える可能性があります。
- * 冬期において凍結し、割れや剥離が起こる可能性があります。昼夜気温5℃以下になる場合は施工を避けて下さい。
- * 割れや剥離、破損が起きた場合はその部分を取り除き、施工手順通りに再度施工して頂ければ補修可能です。
- * 一度に大量に練り込んでしまうと施工途中に硬化してしまうので練り込み量に注意して下さい。

ウィーガード (防草仕様)

施工要領

雑草除去路盤に40mm厚施工(使用量 約2.8袋/m²)



1 施工する場所の除草。



2 根まで十分除去して下さい。



3 不陸整正。



4 転圧。(踏み固める。) 端部はブロック等で固定し、境界部の抑えをしっかり行って下さい。



5 砕石を敷き均す。



6 転圧。

【地盤が軟弱な場合や、水溜まりができるなど水はげが悪い場合は、必ず下図のように砕石で路盤を造って下さい。】



7 ウィーガードを敷き均す。飛散した材料が付着しないように周辺を養生して下さい。木コテ・プラスチックコテで均し押さえて下さい。(平らに整地する程度、押さえすぎると施工厚が40mm以下となり、透水性・保水性が低下します。)



8 コテむらを無くすため、ほうきや刷毛等で表面を均して下さい。



9 1次散水 噴霧器等(出来るだけ霧状)を使って、全体をやさしく均一に散水して下さい。シャワーホース等で勢い良く散水すると色粉が沈んでしまい、施工不良となります。清水(水道水)を使用して下さい。水量は表面が濡れる程度。散水時の足跡はほうきで均しながら順次散水して下さい。 ※整地した表面が崩れないように全体を濡らして引き締める程度、散水量が多過ぎると固化材が流出し、骨材表面の露出により本来の仕上がり時の色調と異なりますのでご注意下さい。(P 14の「固化材が流出した仕上がり」画像をご参照下さい)



10 2次散水(目安時間1次散水後 夏場:約30分、冬場:約60分) 手で押さえて跡が残らない程度に硬化したら散水可能。ジョウロ(シャワーホース)を使って均一に散水して下さい。清水(水道水)を使用して下さい。(1㎡あたり15~18ℓ:季節や厚みにより変動あり)目安としては水が薄く浮き上がる程度に散水して下さい。散水量が不足すると下層部まで水が浸透しないため、硬化不良やクラックの発生原因になりますのでご注意ください。



11 養生期間 夏場:12時間 冬場:24時間



12 完全硬化 夏場:約1週間 冬場:約2週間 (表面の砂利は徐々にとれますが強度は変わりません。)

<注意事項>

- ※バイクや自動車の乗り入れる場所には強度不足のため施工を避けて下さい。
- ※降雨時または降雨が予測される日には施工を避けて下さい。
- ※強風時には施工を避けて下さい。
- ※気温が5℃以下の日には施工を避けて下さい。
- ※冬場など寒い時期は施工表面がまだら状に凍結し剥離する場合がありますが、強度上の問題はありません。

ハイブメント

ウィーガード（軽～重歩行仕様）

施工フロー

下地調整 >>> 敷き均し・転圧 >>> 1次散水 >>> 2次散水 >>> 養生 >>> 完成

準備する工具

レーキ・トンボ・タンパー・ジョウロ・木コテ・ほうき・平スコップ・転圧ローラー
水道を利用できる現場＝シャワーホース（霧状の物）、連結ホース
水道を利用できない現場＝水タンク・動力式散水機（シャワーホース）

施工手順

1. 下地調整

- 1) 雑草や障害物を取り除き、土面を均等に均します。
- 2) 砂利や碎石で必要な厚さの路盤を形成します。（施工断面図参照）
- 3) 全体を十分に転圧し締め、路盤を平坦にしてください。
（路盤に不陸が出ている場合、表層面の不陸やクラックの発生の原因に繋がりますので入念に仕上げて下さい。）
- 4) 下地散水
路盤や舗装止め（縁石、型枠等）を十分に散水して下さい。（舗装散水時に水分が路盤や舗装止めに取られないため。）
- 5) 舗装見切り（縁石・見切り箇所）を汚さないため、養生テープ等で養生を行って下さい。

2. 敷き均し・転圧

- 1) ウィーガードを舗装箇所に必要な量を配置して下さい。

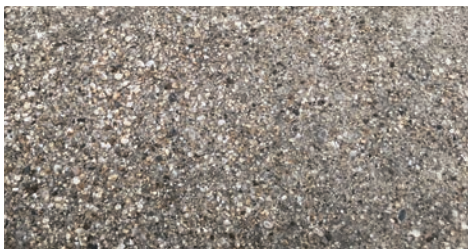
舗装厚4cm	70kg/m ²	2.8 袋
5cm	87.5kg/m ²	3.5 袋
6cm	105kg/m ²	4.2 袋

（ロス分は含まず）
- 2) 舗装面に舗装厚に合わせて均一に舗装材袋を並べて下さい。
- 3) 袋を開封してレーキやトンボ・木コテ等で、舗装厚の10%程高く均一に敷き均して下さい。
なお舗装止め（縁石、型枠等）の角も足踏みやタンパー等で十分に押し固めて下さい。（強度が均一になるポイントです。）
- 4) レーキやトンボ又は定木等で平坦になる様敷き均して下さい。（仕上がりが平坦になるポイントです。）
- 5) 防草対策以外で施工する場合は、転圧ローラーまたはタンパー足踏み等で、舗装面全体を十分に締め固めた後レーキや定木にて引き均しを行って下さい。
- 6) 敷き均し後、自在箒や大きな刷毛で表面を同一方向に軽く均してローラーやレーキの跡を消すことにより、完成後より自然な舗装面に仕上がります。
- 7) ウィーガードは散水後わずかな収縮が発生するため、小面積の場合は目地の設置は不要ではありますが、大きな面積の場合はクラック防止の為目地の設置が必要になります。目地間隔は歩道の場合5m 間隔、広場の場合は5m×5mを基本に設置して下さい。

3. 1次散水

噴霧器等（出来るだけ霧状）を使って、全体をやさしく均一に散水して下さい。清水（水道水）を使用してください。水量は表面が濡れる程度。散水時の足跡はほうきで均しながら順次散水して下さい。

※整地した表面が崩れないように全体を濡らして引き締める程度、散水量が多過ぎると固化材が流出し、骨材表面の露出により本来の仕上がり時の色調と異なりますのでご注意ください。



固化材が流出した仕上がり（グレー）



通常の仕上がり（グレー）

4. 2次散水（目安時間 1次散水後 夏場：約30分～1時間、冬場：約1時間～2時間）

手で押さえて跡が残らない程度に硬化したら散水可能。ジョウロ（シャワーホース）を使って均一に散水してください。清水（水道水）を使用してください。水量は規定量（1m²あたり厚さ4cm:約15L、厚さ5cm:約19L、厚さ6cm:約23L 季節や厚みにより変動あり）目安としては水が薄く浮き上がる程度に散水して下さい。散水量が不足すると下層部まで水が浸透しないため、硬化不良やクラックの発生原因になりますのでご注意ください。

5. 養生

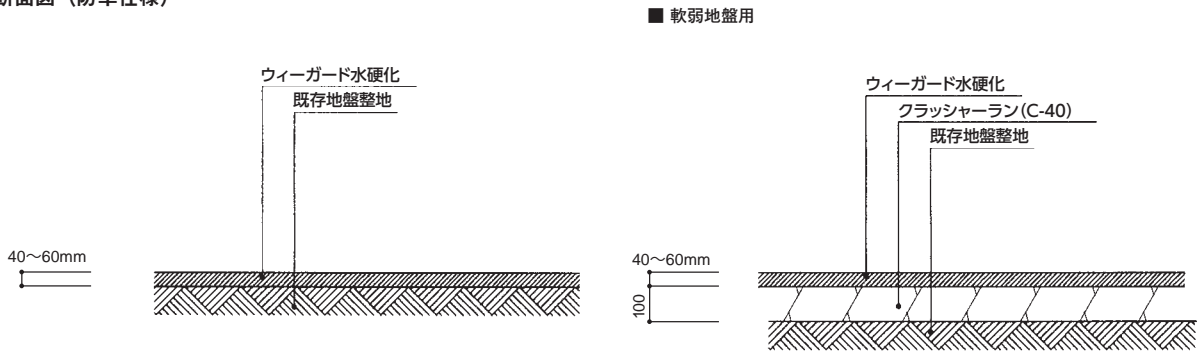
- 1) 散水後、ブルーシートや農ボリにて養生が必要です。舗装材の湿潤状態を作ることで、舗装材の強度を上げ、クラックの発生や表面のドライアウトによるポロ付を抑えることができます。
- 2) 夏季においては、暑さにより散水後に表面乾燥によるドライアウトが起こりやすく、冬季においては低温による表面凍結が発生することを防ぐため、養生マット、ブルーシート、農ボリシート等で舗装表面をキズつけない様に養生し、夏季は4日以上、冬季は1週間以上の目安で養生して下さい。
- 3) 養生シートは風等で飛ばされない様しっかり土糞等で抑えて下さい。
- 4) 養生期間は、絶対に乗らないで下さい。

*冬季気温が4度以下でやむをえず施工する場合は、下記注意事項を考慮して施工して下さい。

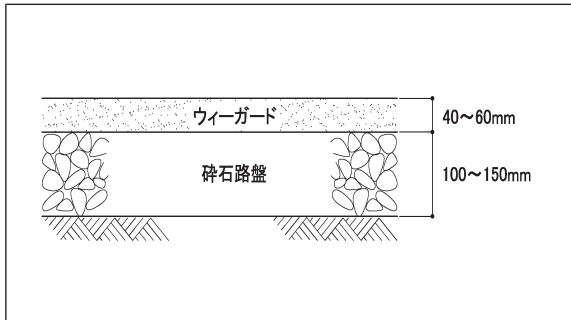
- ①散水は暖かい昼ごろまでに終了して下さい。
- ②日陰の低温場所では施工しないで下さい。
- ③散水後、養生マット等で加温養生して下さい。

6. 完成

施工断面図（防草仕様）



施工断面図（軽～重歩行仕様）



使用目的による施工厚（1㎡あたり）

施工厚	40mm	50mm	60mm
使用量(kg)	70	87.5	105
必要袋数 (25kg/袋数)	2.8	3.5	4.2
使用目的	防草及び公園園路等における 人員程度の交通	左記に加え、より多くの人員及び 軽車両(自転車)程度の交通	左記に加え、管理車両・緊急車 両等の通行が想定される場合
路盤	砕石等を使用し、 100mm程度の路盤を施工する	砕石等を使用し、 100～150mm程度の路盤を 施工する	砕石等を使用し、 150mm以上の路盤を施工する

フローベーズ レギュラー／スモール

繊維化ウレタン樹脂FB-U800及び、FB-U1000を使用する場合

土間コンクリート下地に10mm厚施工（レギュラー）

土間コンクリート下地に5mm厚施工（スモール）



1 下地処理

施工現場清掃作業

※事前にP21「フローベーズ施工後の生活臭について」のご注意を必ずご参照下さい。



2 施工下地にプライマーを塗布

プライマーの塗付可能面積の目安

ウールローラー:約150g/m²

刷毛:約100g/m²

(使用する塗付工具により異なります)



3 樹脂の配合

資材(骨材)を容器に入れます。

練り合わせる樹脂に見合う分量

樹脂1.25kg / レギュラー骨材20kg

樹脂2.25kg / レギュラー骨材40kg

樹脂の配合：大面積の場合（樹脂計量）



主剤(A)を計量。



計量した主剤(A)に繊維化強化剤(B)を計量しながら入れて下さい。
硬化促進剤を使用される場合は、この時点で入れて下さい。本体に記載してある使用方法を、ご確認ください。

樹脂の配合：小面積の場合（小分けセット）



樹脂の攪拌容器に主剤(A)と繊維化強化剤(B)を入れて下さい。

硬化促進剤を使用される場合は、この時点で入れて下さい。本体に記載してある使用方法を、ご確認ください。

※小分けセットの容器は、アルミバックに変更しております。



6 合材の作成

主剤(A)と繊維化強化剤(B)が均一になるまで混ぜます。



7 骨材に投入

攪拌した樹脂を骨材に投入します。



8 混ぜ合わせ

骨材と樹脂を均一に混ぜ合わせて下さい。

※攪拌不足ですと施工不良(強度のパラツキ)の原因になります。



9 均し作業

施工場所に骨材を流し込みます。



10

均し仕上げ作業
仕上げは金ゴテを使用し、平滑になるように十分押さえながら同時に施工厚を確認し、仕上げていきます。



バーナーで熱を加えると、金ゴテの滑りが良くなります。



均し作業における注意事項
樹脂溜まりが来ると、写真のように発泡状態となります。樹脂溜まりがある場合は、まわりの骨材とよく混ぜ合わせて下さい。



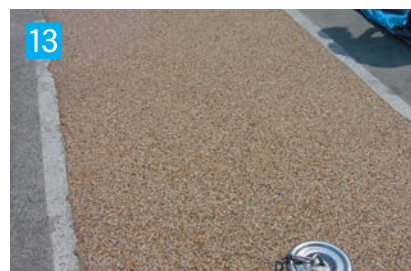
11

仕上げ作業
金ゴテ均し終了後、硬化する前に滑り止め(ノンスリップ材)を撒いて下さい。
※ノンスリップ材を撒きすぎると、色むらの原因になりますのでご注意ください。



12

仕上げ作業
大面積の場合、20m²ごとに目地きりを入れます。



13

完成
硬化時間の目安
歩行可能/施工完了後6時間程度
車両乗り入れ可能/施工完了後12時間程度
※上記硬化時間の目安は外気温25℃の設定です。但し、冬場の外気温5℃以下の場合2倍以上かかることがあります。

【アスファルト下地の場合の施工手順】

アスファルト下地に施工する場合は左ページに掲載されているフローピース施工手順の1と2部分を下記の手順に従って下さい。



下地処理
施工現場清掃作業



下地に振るい砂を散布し表面が平滑になるようホウキ等で均してください。



砂を均した状態



樹脂の配合

※左ページ上段 3 へ

- ※土間コンクリート下地には、フローピースの透水性を活かすために、排水処理を考慮し必要に応じて適切な処理を行って下さい。
- ※プライマーは塗布後、約1時間(外気温25℃条件)で乾燥しますが、未乾燥のままフローピースの施工をしても強度上問題はありません。但し、靴に付着し周囲を汚すことがありますので、養生して下さい。
- ※施工に使用する容器や工具類は必ず専用のものをご使用下さい。汚れた容器やハンドミキサーを使用すると色むらが発生する可能性があります。
- ※外気温5℃以下での施工は避けて下さい。
- ※風の強い日や降雨の予想される日には施工を避けることをおすすめします。
- ※必要施工厚(レギュラー骨材10mm以上・スモール骨材5mm以上)を順守して下さい。施工厚が少ないと強度不足のため剥離することがあります。
- ※アスファルトは伸縮が大きく、クラックを防止する為、砂による分離層が必ず必要になります。
- ※アスファルト下地にフローピースを施工する際は、必ず施工厚を10mm以上とって下さい。スモール骨材での施工は避けて下さい。
- ※下地のアスファルトに凹凸がある場合や、クラックなどが生じている場合には、施工できないことがありますので、ご相談下さい。

◎「色むら」が発生した事例の中で下記のものが主な要因としてあげられます。(※1)

- 1 使用する工具類 2 材料の骨材 3 天候 4 樹脂

1-1. 使用する工具類の要因その1

原因 樹脂と骨材を混合する際にモルタルの付着した容器や攪拌機を使用した場合。
内容 攪拌中、工具類に付着したモルタルが削れて、細かい粒子となって樹脂と骨材の中に混入されます。多少の濃淡の差はありますが施工をした順に「黒っぽい色むら」が発生します。

※モルタルの付着した容器・工具は、絶対使用しないで下さい。

2. 材料(骨材)の要因

原因 特に自然石骨材でロット違いのものを合わせて使用した場合。
内容 色むらの状態は、骨材自体の配合粒子の色调が原因ですのでモルタルや土の混入による「色むら」とは違う状態です。
対策 弊社では在庫品のロット管理を更に徹底し、ロットの違うものを出荷しないように致します。

※お客様のストック分と新たな手配分を合わせてご使用になる場合は、袋に記載されているロット番号が同じかどうか確認下さい。
 ※ロットの違う骨材で施工する場合は、同一比率で骨材同士を混ぜ合わせて使用して下さい。

3. 天候の要因

原因 風のあるときの施工または施工途中で強風・突風があった場合。
内容 施工したフローベーズの表層が完全硬化前に強風・突風で飛ばされてゴミ・埃が表層の樹脂に付着して「色むら」となります。
 ※強風時での施工は避けて下さい。また、施工途中や施工後の完全硬化前に強風・突風の恐れがある場合は、状況に応じた対応をお願い致します。
 ※ゴミ・埃の付着による「色むら」を防止するため、施工場所の周辺の養生やフローベーズを施工した部分の養生をしていただくことをおすすめします。

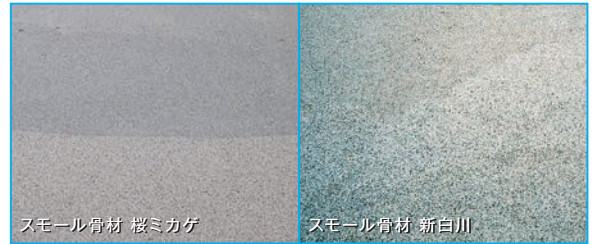
4. 樹脂の要因

原因 同一の現場内で違う樹脂を使い施工した場合。
内容 黄変タイプ(例FB-U800ウレタン樹脂)と無黄変タイプ(例FB-U1000ウレタン樹脂)を同一現場内で使用された場合にそれらの樹脂で施工した所ごとに紫外線による樹脂の黄変で「色むら」というよりは「色違い」の状態になります。
対策 弊社では受注・出荷・配送の際に誤出荷が起きないように充分注意し発送致します。
 ※お客様の在庫分と新規ご購入分とを合わせてご使用になる場合、品種が同じものかご確認下さい。

1-2. 使用する工具類の要因その2

原因 樹脂と骨材を混合する際に、使用する攪拌機を直接地面に置き、土などが付着したままの状態での攪拌作業を行った場合。
内容 付着した土が樹脂と骨材に混入して「黒っぽい色むら」が発生します。
 ※土や埃の付いた工具は、絶対使用しないで下さい。
 ※工具に土や埃が付着しないように混合作業場所の地面を養生して下さい。

(※1) 色ムラ参考画像



【すべり止め施工(事後施工の場合)】

フローベーズのすべり止め施工は、砂利形骨材及びガラス骨材を使用される現場については、必ず同時施工をおすすめします。この施工方法は、すでにフローベーズが施工済みの現場に事後施工する場合のものです。



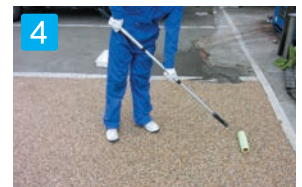
1 施工場所の表面のゴミ・汚れを除去して下さい。汚れのひどい場合は、デッキブラシ等で水洗いし乾燥させてから施工して下さい。



2 トップコートを施工面積に合わせて主剤と硬化剤を計量し、十分に混ぜ合わせて下さい。混合比は、主剤：硬化剤が1：1です。



3 トップコートがローラーに多量に付着しないようにローラーを「シコキ」ながら作業して下さい。



4 トップコートは、ローラーで均一に塗布して下さい。多量に塗布した部分があると、数日後に「むら」となり目立つことがあります。



5 トップコートは、塗布後15分～20分(外気温25℃として)で乾燥してしまいますので、塗布作業は2～3㎡目安に順次ノンスリップ材を散布して下さい。

■すべり止め施工使用部材



トップコート M5438 / M5439 ¥63,000/12kgセット 施工可能面積 約75㎡
 トップコート M5437 ¥19,300/2.6kgセット 施工可能面積 約16㎡



ノンスリップ材 M5434 ¥1,100/袋(500g) 施工可能面積 約25㎡

■アフターメンテナンス施工使用部材



トップコート M5438 / M5439 ¥63,000/12kgセット 施工可能面積 約75㎡
 トップコート M5437 ¥19,300/2.6kgセット 施工可能面積 約16㎡

【アフターメンテナンスについて】

フローベーズの自然石及びガラス骨材を使用して施工された場合に1ヶ月に1～2回水洗いをされますと施工当初の光沢が保持されます。この施工方法は、骨材の表面が車の乗り入れによる損傷や紫外線及び酸性雨による光沢の減少に対する補修施工です。状況により異なりますが、フローベーズを施工後、2年前後に行うことにより景観性を保つことが出来ます。



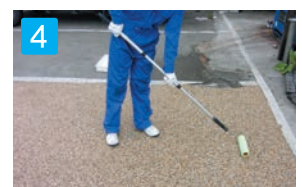
1 デッキブラシ等で水洗いし、乾燥させてから施工して下さい。



2 トップコートを施工面積に合わせて主剤と硬化剤を計量し、十分に混ぜ合わせて下さい。混合比は、主剤：硬化剤が1：1です。



3 トップコートがローラーに多量に付着しないようにローラーを「シコキ」ながら作業して下さい。



4 トップコートは、ローラーで均一に塗布して下さい。多量に塗布した部分があると、数日後に「むら」となり目立つことがあります。

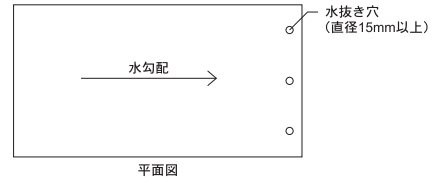
フローベーズ施工についてのご注意

フローベーズ施工後の生活臭について

- 原因** ※フローベーズの空隙部分から混入した有機物(泥・土等)が滞留した水分により腐敗臭やカビ臭が発生することがあります。
 ※動物(ペット等)の糞・尿が原因で、臭いが発生する場合があります。
- 対策** ※施工したフローベーズの下層部まで完全硬化しないうちに泥・土等が混入すると、樹脂と接着してしまい流出しません。
 泥・土等が付着しやすい施工環境では、施工後一週間程度表面をシート等で養生し、泥・土等の侵入を防止して下さい。
 ※雨水等の滞留を防止するため下記のように水抜き(排水)処理をして下さい。

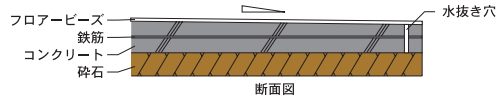
■ 土間コンクリートに水抜き穴を作る場合

- (1) 下地コンクリートに砕石路盤まで抜けるようにドリルで水抜き穴を開け加工して下さい。
- (2) 両サイドから約0.5mに開け中間は約1.0m間隔で直径15mm以上の水抜き穴を開けて下さい。
- (3) 施工時には、フローベーズを水抜き穴部分に先に埋め込み全体を、仕上げして下さい。



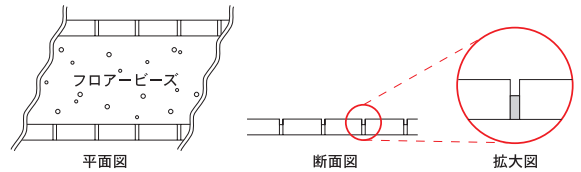
■ 縁石に水抜き加工をする場合

- (1) 敷地内の通路で敷設した見切りの縁石に水抜き加工する場合には、縁石のジョイント目地部分を加工して下さい。
- (2) フローベーズの施工厚み分だけ目地モルタルを下げて施工するか又は縁石施工後に目地部分をサンダーで5mm~10mm前後切り込んで下さい。



■ 対処方法

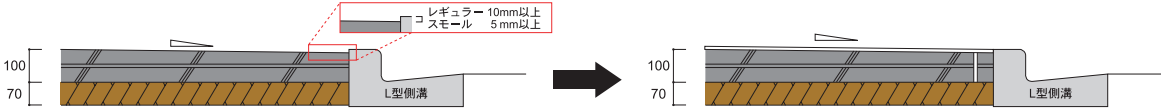
※生活臭が発生した場合には、臭いがフローベーズに付着して取れ難くなりますので、早期に市販されている無香料の消臭剤を散布して下さい。



新規／既存土間コン下地での施工注意点

■ 新規土間コン下地での施工注意点

- 施工強度を保持するため、下記のように施工して下さい。
- ※レギュラー・ゴムチップ骨材の施工の場合
 *必ず10mm以上施工厚みが取れるように下地コンクリートを打設して下さい。
 - ※スモール骨材の施工の場合
 *必ず5mm以上施工厚みが取れるように下地コンクリートを打設して下さい。



■ 既存土間コン下地での施工注意点

- 見切り部分の強度を保持するため、下記のように施工して下さい。
- ※レギュラー・ゴムチップ骨材の施工の場合
 *必ず既存土間コンを見切り部分で幅100mm、深さ20mm分カットし除去してからフローベーズを施工して下さい。
 - ※スモール骨材の施工の場合
 *必ず既存土間コンを見切り部分で幅100mm、深さ10mm分カットし除去してからフローベーズを施工して下さい。



トッピング (骨材がポロポロとれてしまう現象) についてのご注意

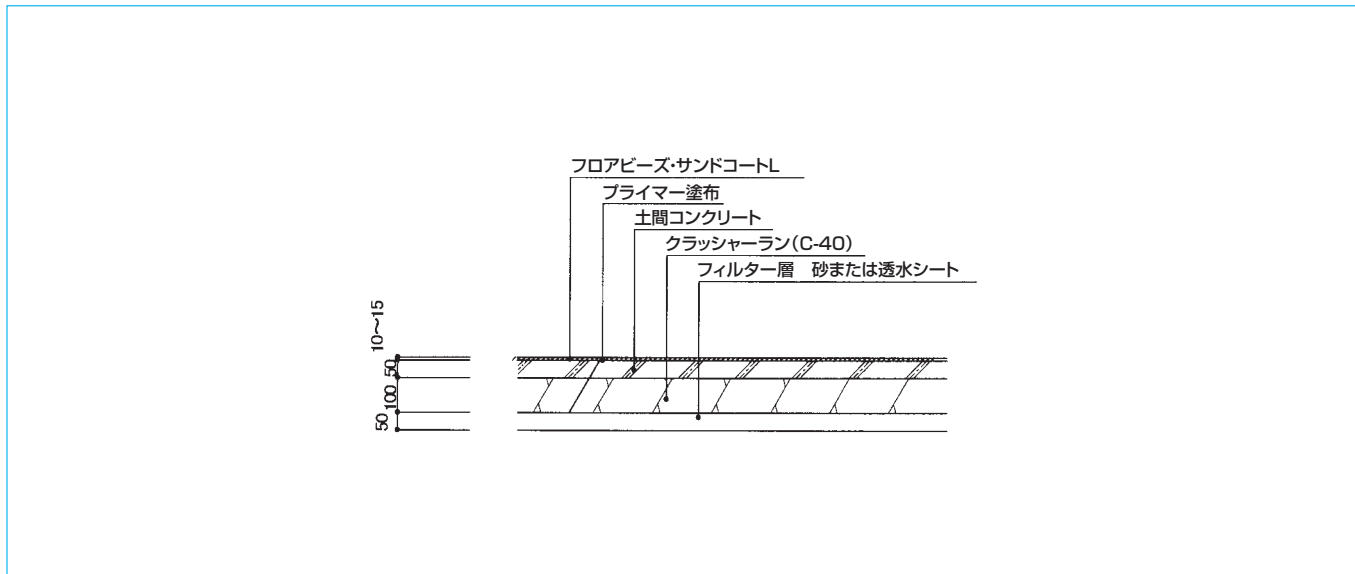
- 原因** 1. 規定通りの施工厚みが取れていないため。
 2. 骨材が立っている状態で施工面に凹凸がある場合。(右写真をご参考下さい)
- 内容** 原因の1では、強度不足のため施工した骨材がポロポロ取れてしまう。
 原因の2では、骨材と骨材の接着が悪いためポロポロ取れてしまう。
- 対策** 必ずレギュラーでは施工厚み10mm厚、スモールでは5mm厚で施工し、表面が平滑になるように「コテ」でよく均して下さい。



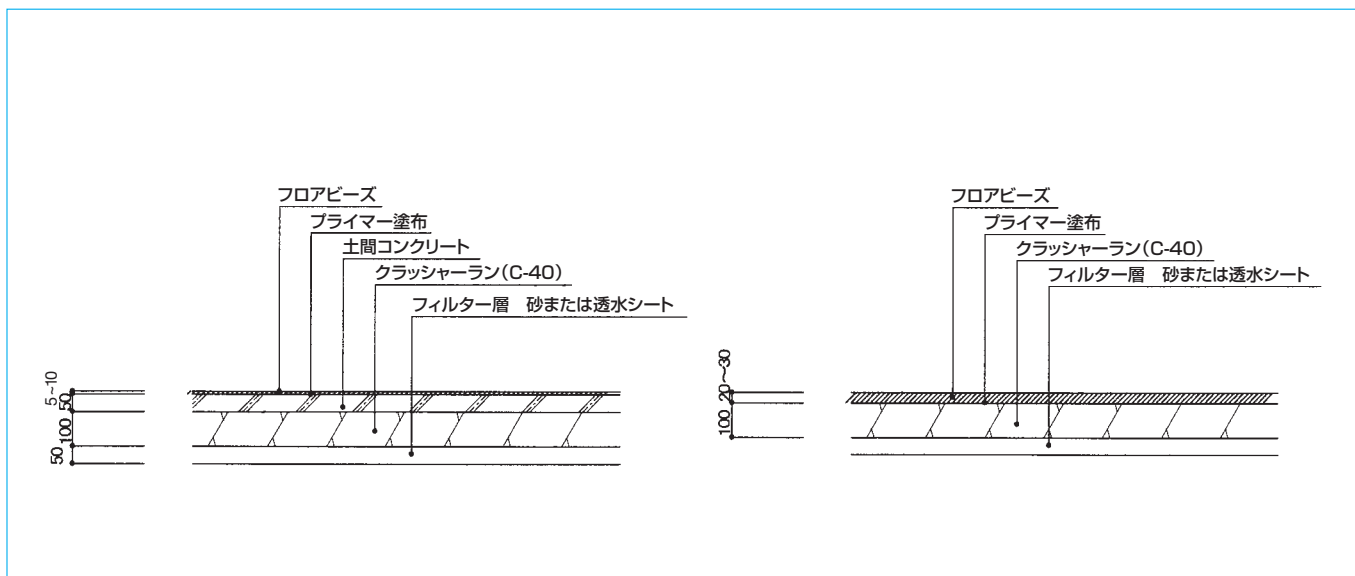
FB-U800 使用時の色むら防止について

- 原因1** 同一の現場内で施工日の間隔が空き過ぎたため。
- 内容** 黄変タイプ樹脂のFB-U800を使用して施工する場合には、同一の現場内で施工日の間隔が空き過ぎた(3日以上)ため、先に施工した部分と後から施工した部分の黄変状態に差が生じ「色むら」になります。特に、直射日光の当たる場所では、顕著に差が出ます。
- 対策** FB-U800繊維化ウレタン樹脂を使用して施工する場合には、施工間隔を2日以内で完了するようにして下さい。
- 原因2** 繊維強化剤(B剤)の分量が多いため。
- 内容** FB-U800・FB-U1000ウレタン繊維化樹脂の22.5kgセットを使用して施工される場合に、繊維強化剤(B剤)の計量を誤って規定より多く配合してしまうと黒色系の「色むら」が発生します。
- 対策** 必ず規定通りに計量して使用して下さい。
 樹脂の配合比 ⇒ 主剤(A剤)：繊維硬化剤(B剤) = 4 : 1
 樹脂の骨材に対する混合比 ⇒ 6%

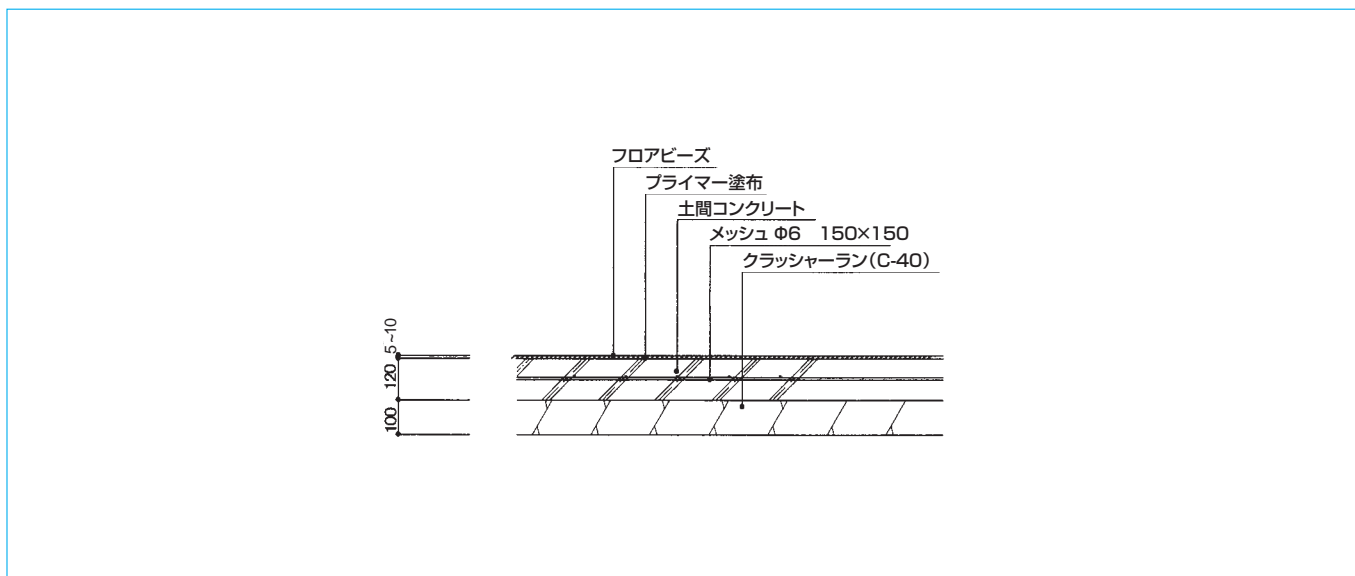
【フロービーズ・サンドコートL (歩道用)】



【フロービーズ (歩道用)】



【フロービーズ (車両用)】



ビーズロック

施工要領



1 回目の噴霧
バインダーを付属のスプレー容器に移し、固定したい砂利の上から均等に適量をスプレーします。



2 回目の噴霧
1 回目のスプレーの後、数分おいてから均等にスプレーして仕上げます。



完成
硬化するまで養生して下さい。
(硬化までの目安 夏場: 6 時間以上 冬場: 2 4 時間以上)

<注意事項>

- * 本製品は飛散防止を目的としており、歩行など加重がかかる場所への施工は避けて下さい。
- * 車庫目地などに使用する場合には、タイヤが直接触れないようにするため、仕上がリレベルを土間のレベルよりも低く設定して下さい。
- * スプレーがかかる範囲は十分な養生をして下さい。
- * 外気温 5℃ 以下の場合には施工を避けて下さい。
- * 強風時または強風の恐れがある日は施工を避けて下さい。
- * 降雨時や降雨が予想される状況では施工を中止して下さい。
- * 施工後は完全硬化まで養生し、必ず硬化の確認のうえ開放して下さい。
- * 施工の際には保護メガネ、防塵マスク、保護手袋を着用して下さい。
- * 万が一、皮膚に付着した場合は水と石鹼でよく洗い流して下さい。目に入った場合は数分間注意深く水で洗い流し、直ちに医師の診断を受けて下さい。
- * 誤って吸引するなどして、気分が悪くなった時は速やかに医師の手当てを受けて下さい。
- * 材料を保管する場合は雨水などの水濡れ及び直射日光を避けて下さい。

ハイ
ブ
メ
ン
ト

ワンデーダイレクト

施工要領

- 1** 碎石下地を作る。
碎石 (50mm~70mm 厚: 歩行用) を施工箇所に撒く (クラッシャーラン C-40 推奨)。

- 2** 転圧する。
転圧機又はランバー等を用いて、碎石を十分に転圧する (仕上がリ G.L. より -10mm まで転圧)。

- 3** ワンデーダイレクト施工
本製品を噴霧器等に入れ、適量を 2 回に分けて噴霧する。
※ 噴霧前、周囲に本製品がかからないよう、しっかり養生して下さい。
※ 誤って付着した場合、速やかに洗浄用シンナーで拭きとって下さい。
※ 1 回目噴霧後すぐ 2 回目の噴霧を行なえます。

- 4** フロアービーズ施工
※ ワンデーダイレクト施工後すぐにフロアービーズの施工が可能です。
※ 通常通りのフロアービーズを施工して下さい。施工厚 = 10mm (スモール・レギュラー共)
※ プライマー処理は必要ありません。
※ ワンデーダイレクト施工面に立ち入らないよう施工して下さい。

- 5** 養生
フロアービーズ面が完全硬化するまで養生する。

<注意事項>

- * 外気温 5℃ 以下の場合には施工を避けて下さい。
- * 洗浄可能な噴霧器以外は施工後処分して下さい。

フローピース サンドコートR

施工要領



1 下地処理
 施工現場(フローピースレギュラー)の清掃
 ※フローピースレギュラーを施工の際にノンスリップ材の使用はお避け下さい。



2 充填材の敷き均し
 充填材(粉末)を適量配り刷毛やブラシで石目の間や隙間に充填しながら均一に敷き均して下さい。



3 余分な充填材を取り除く
 石表面がある程度露出する位がきれいな仕上がりになります。



4 吹きつけ(写真は噴霧器)
 樹脂を付属のスプレーや噴霧器(現地調達)で石の表面を洗い流すように均等に規定量を吹きつけて下さい。



5 完成
 硬化するまで養生して下さい。
 (硬化までの目安 夏場:4時間以上 冬場:12時間以上)



6 ノンスリップ材を撒いた場合の仕上がり
 既にフローピースを施工している現場でノンスリップ材が残っている場合、ノンスリップ材に色粉が付着し写真のような仕上がりになります。

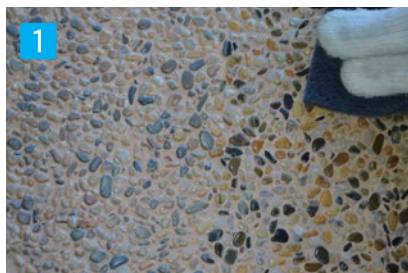
<注意事項>

- * 外気温5℃以下の場合は施工を避けて下さい。
- * 強風時または強風の恐れがある日は施工を避けて下さい。
- * 降雨時や降雨が予想される状況では施工を中止して下さい。
- * 施工後は完全硬化まで養生し、必ず硬化の確認のうえ開放して下さい。
- * 施工の際には保護メガネ、防塵マスク、保護手袋を着用して下さい。
- * 万が一、皮膚に付着した場合は水と石鹸でよく洗い流して下さい。目に入った場合は数分間注意深く水で洗い流し、直ちに医師の診断を受けて下さい。
- * 誤って吸引するなどして、気分が悪くなった時は速やかに医師の手当てを受けて下さい。
- * 材料を保管する場合は雨水などの水濡れ及び直射日光を避けて下さい。
- * フローピースを新規施工し、連続してサンドコートRを施工する場合は、フローピースが完全硬化してからサンドコートRの施工を始めて下さい。

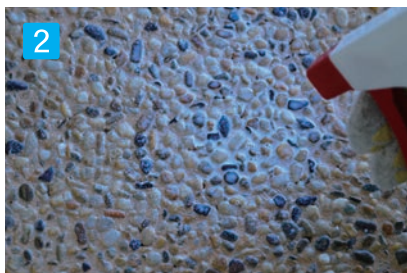
サンドコート補修材

* 表面に充填骨材が残ってしまった場合の除去方法

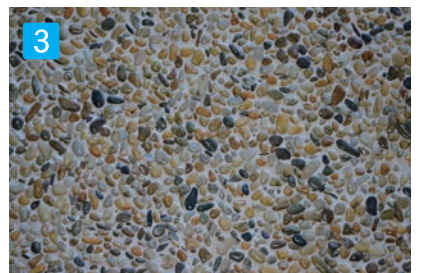
サンドコートR/Lを施工した後の表面に膜が張ったように曇ってしまった場合、サンドコートが完全硬化したあとに表面を軟らかいヤスリを使って円を描くように擦り、再度樹脂を噴霧すると曇りが軽減され本来の仕上がり近づけることができます。(サンドコートの硬化が不十分な状態で行うと綺麗に仕上がりませんのでご注意ください。)



1 スポンジブラシ等を使って石の表面に残った充填骨材を擦り取る。その後表面を掃いて綺麗にする。



2 樹脂を噴霧する



3 自然乾燥(養生)して完了。
 (乾燥までの目安:外気温25℃で1~2時間)

<注意事項>

- * 外気温5℃以下の場合は施工を避けて下さい。

ハイブメント

フロービーズ サンドコートL

施工要領



1
下地処理
施工現場の清掃



2
プライマー塗布
プライマーが周りに付着しないように必ず養生して下さい。刷毛又はウーローラーで均一に塗布して下さい。



3
骨材と樹脂混合
容器に骨材を投入し専用樹脂を全量流し込んで下さい。



4
攪拌
骨材の表面全体に樹脂が付着するまで十分攪拌して下さい。



5
投入
施工場所に投入し流し込んで下さい。



6
敷き均し
金コテを使って平滑になるように十分押さえながら、同時に施工厚を確認しながら均して下さい。
(施工厚:15mm以上)
※バーナーで金コテを熱を加えると滑りがよくなります。



7
ベースの完成
硬化するまで養生して下さい。硬化する前に作業を進めるとベースが動いて施工不良の原因になります。
(硬化までの目安 夏場:6時間以上 冬場:24時間以上)



8
充填材の投入
充填材(粉末)を適量配り刷毛やブラシで石目の間や隙間に充填しながら均一に敷き均して下さい。



9
余分な充填材を取り除く
石表面がある程度露出する位がきれいな仕上がりになります。



10
吹きつけ(スプレー)
樹脂が付属のスプレーや噴霧器(現地調達)で石の表面を洗い流すように均等に規定量を吹きつけて下さい。



11
吹きつけ(噴霧器)



完成
硬化するまで養生して下さい。
(硬化までの目安 夏場:4時間以上 冬場:12時間以上)

<注意事項>

- * 外気温5℃以下の場合は施工を避けて下さい。
- * 強風時または強風の恐れがある日は施工を避けて下さい。
- * 降雨時や降雨が予想される状況では施工を中止して下さい。
- * 施工後は完全硬化まで養生し、必ず硬化の確認のうえ開放して下さい。
- * 施工の際には保護メガネ、防塵マスク、保護手袋を着用して下さい。
- * 万が一、皮膚に付着した場合は水と石鹸でよく洗い流して下さい。目に入った場合は数分間注意深く水で洗い流し、直ちに医師の診断を受けて下さい。
- * 誤って吸引するなどして、気分が悪くなった時は速やかに医師の手当てを受けて下さい。
- * 材料を保管する場合は雨水などの水濡れ及び直射日光を避けて下さい。
- * 土間コンクリート下地には、フロービーズの透水性を活かすために、排水処理を考慮し必要に応じて適切な処理を行って下さい。

ハイブメント

フローピース 標準ゴムチップ・遮熱ゴムチップ・ゴムチップ

土間コンクリート下地に7.5mm厚施工



1
下地処理
施工現場清掃作業
※事前にP21「フローピース施工後の生活臭について」のご注意を必ずご参照下さい。



2
施工下地にプライマー(1液性)を塗布
塗布作業には、刷毛もしくはローラーを使います。
プライマー塗布可能面積の目安:
ウーローラー 約150g/m² 刷毛 約100g/m²
(使用する塗付工具により異なります)



3
プライマーを均一に塗布
小面積用の0.2kgで約1.5m²施工出来ます。



4
骨材投入
骨材(ゴムチップ)をポリ容器に投入します。



5
樹脂(1液性)投入
容器に樹脂を全量、流し込んで下さい。



6
攪拌
骨材(ゴムチップ)と流し入れた樹脂を十分に攪拌します。
骨材全体が濡れた感じになるくらいが目安です。
(約10分程度)
※攪拌が不十分ですと、施工不良の原因となります。



7
均し作業
合材を施工箇所へ移します。



8
均し作業
仕上げは均コテを使用し、平滑になるように十分押さえながら同時に施工厚を確認して仕上げていきます。金コテに樹脂が付着しますので、バーナーで熱を加えると金コテの滑りが良くなります。



9
均し完了
施工現場の清掃



10
均し作業
養生する前に、霧吹きで水分を加えますと硬化速度が促進されます(外気温20℃以下の場合)。表面が濡れる程度にして下さい。加えすぎは施工不良の原因となります。



11
養生
硬化するまで養生して下さい。
(降雨、ゴミ、ホコリの付着防止)
※ゴムチップ舗装が歩行可能になるまでに必要な硬化時間は約6時間(外気温25℃条件)です。但し、冬場の外気温5℃以下の場合、約2倍かかることがあります。



12
完成

<注意事項>

※プライマーは塗布後、約1時間(外気温25℃条件)で乾燥しますが、未乾燥のままフローピースの施工をしても強度上問題はありません。但し、靴に付着し周囲を汚すことがありますので、養生して下さい。
※外気温が5℃以下の場合には施工を避けて下さい。特に夜間、気温が下がる冬場にはご注意ください。

【フローピースの中にデザインピースを施工する場合】



1
下地処理
施工現場清掃作業
※施工面が平らであることを確認する。(注意1)



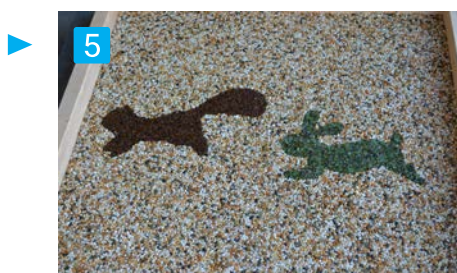
2
施工下地にプライマー(1液性)を塗布



3
デザインピースを置く
※仮固定したい時は必ずクリア(透明)な接着剤を使用する。(注意2)



4
フローピースを施工する
(フローピース施工要領を参照)
※周囲にフローピースを隙間なく施工します。



5
養生/完成

※注意1 接着面が平らでないとデザインピースと下地の間に隙間ができ施工後割れてしまう可能性があるため、必ず平らな下地にデザインピースを密着させて下さい。
※注意2 接着剤を多量に使用するとデザインピースの隙間から余分な接着剤が染み出てしまうため、接着剤を使用する場合は少量でクリア(透明)な接着剤を使用して下さい。

【土間コンクリートの中にデザインピースを施工する場合】



1
デザインピースにラップを被う
※生コンが付着しないようにしっかり包むように被う。



2
コンクリート打設



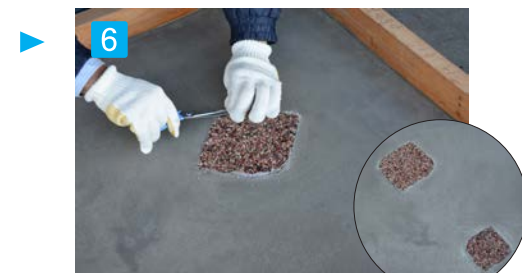
3
デザインピースを埋め込む
※コンクリートがまだ柔らかいうちに埋め込む(注意3)



4
コンクリートを均す



5
養生



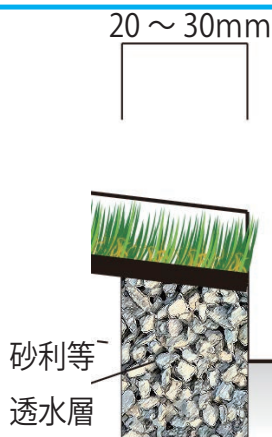
6
完成
硬化した後、ラップを除去する。

※注意3 コンクリートのブリージング水が多いときに設置すると、汚れ水がデザインピース内部に侵入する場合がありますので注意して下さい。

ラインターフ 標準施工

①

モルタル下地の作成



- ・土間の天端より 20 mm以上下までモルタルを入れます。モルタルは養生をしっかりと取って下さい。多少の水分はよいですが、水分が多すぎると専用の接着剤が固まらない可能性があります。
- ・モルタルの表面に大きな不陸（凹凸）がある場合は表面が均一になるよう補修して下さい。
- ・ラインターフ表面より水下方向へ排水しますので、必ず排水勾配を設けて施工して下さい。
- ・勾配先端部には砂利等で透水層（幅 20 mm～ 30 mm）を設け、排水された水を透水させるようにして下さい。

②

ラインターフの準備



- ・ラインターフの裏面に穴が開いている所（水抜き穴）がありますので、専用接着剤がはみ出さないように養生テープ等で穴を塞いで下さい。
- ・現場の目地の長さに合わせてラインターフを加工します。このとき裏面からカッター（黒刃）で切るとあまり芝糸を切らずに加工することができます。

③

接着剤の塗布



- ・下地（モルタル等）の表面にあるゴミやホコリ、油分等を除去して下さい。ゴミやホコリ、油分等が残っていると接着不良の原因になります。
清掃に水を使う場合、水たまりがあると専用接着剤が固まらない場合があります。多少の水分はよいですが、水が残りすぎないように水たまりは拭き取る等して下さい。
- ・コテ等を使用し、専用接着剤を接着面に均一に塗布して下さい。厚さ 2 mm～ 3 mm程度を目安に塗布して下さい。
- ・ラインターフ貼付後に接着剤がはみ出さないよう余幅をとるようにして下さい。

④

ラインターフの貼付

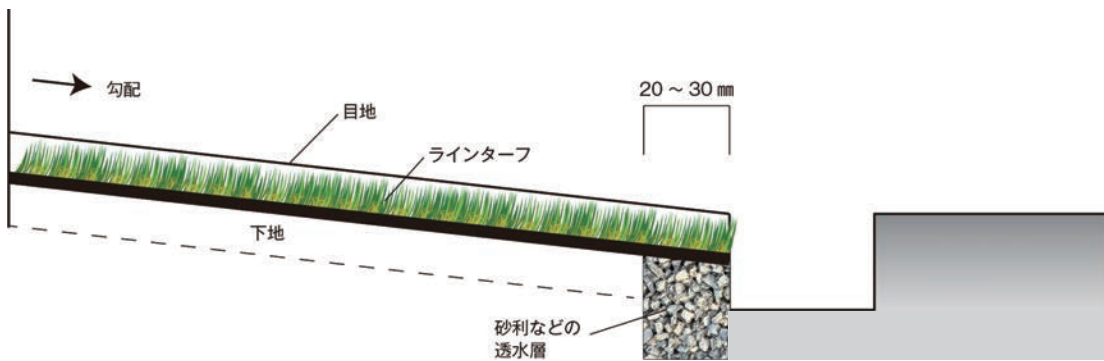


- ・専用接着剤が乾かないうちに貼り合わせます。このとき、芝糸に接着剤が付かないようご注意ください。
- ・貼り合わせる際、芝目の向きにご注意下さい。正面から見た時に芝糸が逆立って見えるように貼り合わせて下さい。
- ・継目はしっかりと突き合わせて貼り付けることで継目が目立ちにくくなります。

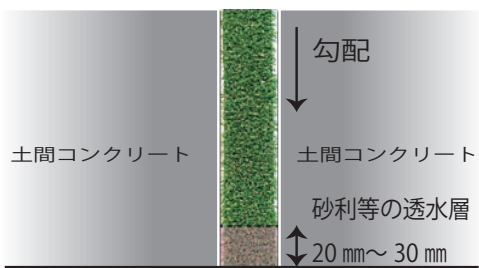
⑤ 養生



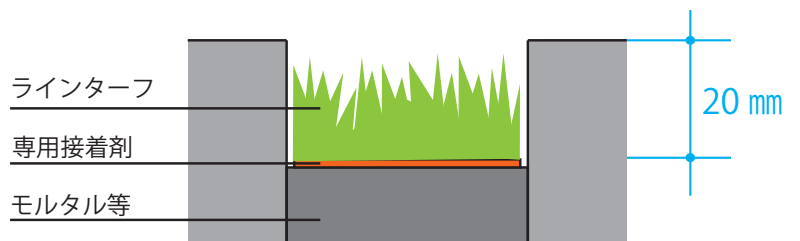
- ・重しを乗せ、均等に荷重をかけ圧着します。
特にラインターフに空気が入ったような浮きが見受けられる場合、その部分をしっかりと圧着し、養生して下さい。
- ・養生期間は1日以上ですが、梅雨期、冬季は乾燥・硬化が遅くなるので、3日以上養生期間を設けて下さい。
下地のモルタルに樹脂モルタルやポリマー入りのモルタルを使用する場合も硬化時間が遅くなりますのでご注意下さい。
- ・養生後に芝が倒れた状態になっている場合があります。
倒れている場合は起こすようにして下さい。芝が起きにくい場合はスチーム等をご使用下さい。



ハイブメント



【水勾配先端部の上面図】



【ラインターフ施工断面図 正面】

【Before】

<ラインターフ Before After>

【After】



<注意事項>

- W=67 mmを基本寸法としますが、+1～2 mmの誤差が生じる場合があります。
- 製品の特性上、シワや折り目等がつく場合があります。その際は逆巻きしたり、スチーム等で温めたりして、シワや折り目等を直してからご使用下さい。
- 防災製品ですが、火気厳禁であり、高温のものを上に置くと変形や熔けるおそれがあります。スチームをご使用する場合も適度に離してご使用下さい。
- 芝目がありますので、芝が逆立って見えるように芝の先端方向が正面に向くように施工して下さい。
- 水はけの悪い場所でご使用する場合はカビ等が発生する可能性がありますので排水勾配等を設けて施工して下さい。
- 住宅の外壁と同じように使用年数の経過とともに多少色落ちする場合があります。
- カットする場合は裏面よりカッターナイフ（黒刃）等でカットして下さい。
また、パイルが縫い込んである部分をカットすると、パイルが多少抜けることがあります。
- ラインターフ同士をジョイントする場合は、ジョイント部をしっかりと突き合わせ施工する事で継目が目立たなくなります。また、基布の部分が目立つ場合は基布をカットする事で目立たなくなります。
- 専用接着剤は水性で水分が多い為（約30%）、硬化後に若干の縮みがあります。
接着剤に含まれている水分がなくなることで硬化する為、養生期間は1日以上必要になります。
また、接着する下地が樹脂モルタル、ポリマー入りのモルタルの場合、モルタルが接着剤の水分を吸収しにくい為、硬化までに時間が掛かります。養生期間を3日以上みるようにして下さい。
同様に水分が多い下地や高湿度（80%以上）の際は固まりにくくなりますので、養生期間を十分みるようにして下さい。ただし、水分が全くない状態では使用できなくなる恐れがある為、夏場の施工で接着面の表面温度が高い場合は、打ち水を行う等をして接着面の表面温度を下げてください。
- 専用接着剤は乾燥する前に雨に当たると溶けてしまいます（水性の為、接着面に水が流れることで溶けます）。雨が降りそうなときは施工を見合わせて下さい。
- 専用接着剤は凍結すると使用不可能になります。冬場の施工、保管には十分ご注意ください。
- 施工時、ラインターフに空気が入ったような浮きが見受けられる場合は、その部分をしっかりと圧着し、養生して下さい。
- 本製品は材質上、静電気が発生する可能性がありますので、ご注意ください。
なお、静電気は乾燥により発生しやすくなる為、散水する事で多少改善致します。

① 下地の調整

- 下地が土の場合、均一にならし十分に転圧して下さい。
- 下地がモルタル等で表面に大きな不陸（凹凸）がある場合、無理やり押し込むとベース部分が割れる可能性があります。表面が均一になるよう補修して下さい。
- ラインターフ表面より水下方向へ排水しますので、必ず排水勾配を設けて施工して下さい。
勾配の取り方が悪いと下地に水が溜まり、ベース材が浮く可能性があります。
- ラインターフ（ベース付）は高さが約 95 mm あります。芝糸が土間の天端から出ないように目地の深さを 100 mm とって下さい。
- 目地の幅が均等でない、目地が真っ直ぐでない等の場合は下地を整えて下さい。下地が調整できない場合はベース材の側面や底面等を調整してから施工して下さい。
- 下地をモルタル等にする場合、勾配先端部には砂利等で透水層（幅 20 mm ~ 30 mm）を設け、排水された水を透水させるようにして下さい。

② 透水層の作成

- 水下方向の勾配先端部には水が溜まり易い為、排水させる為の透水層を作ります。
- 透水層作成の為、勾配先端部のベース材は 20 ~ 30 mm カットして下さい。
※加工の方法は P32 の③ラインターフ（ベース付）はめ込み・カットをご参照下さい。

【勾配先端部のベース材処理】

<透水層への砂利詰め>

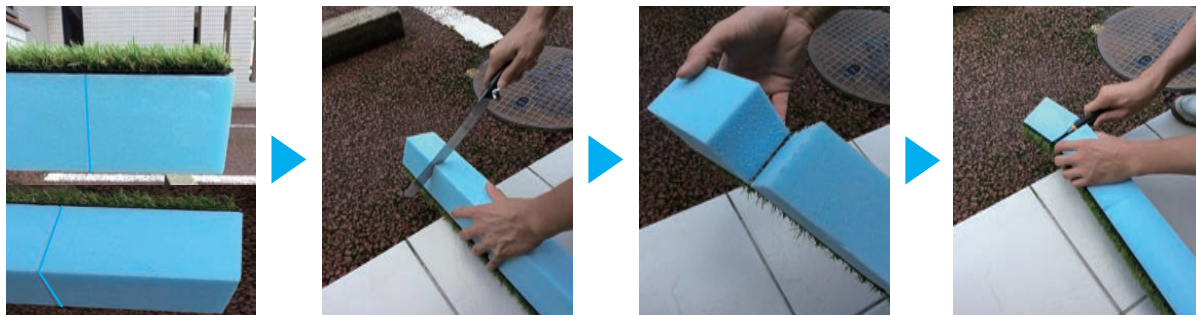
- 排水された水を透水させるために勾配先端部に砂利を入れて下さい。
- 左図のように先端部のラインターフを上部に開き、砂利を入れます。
- 砂利を入れた後はラインターフを戻して下さい。

ラインターフ (ベース付) 標準施工

③

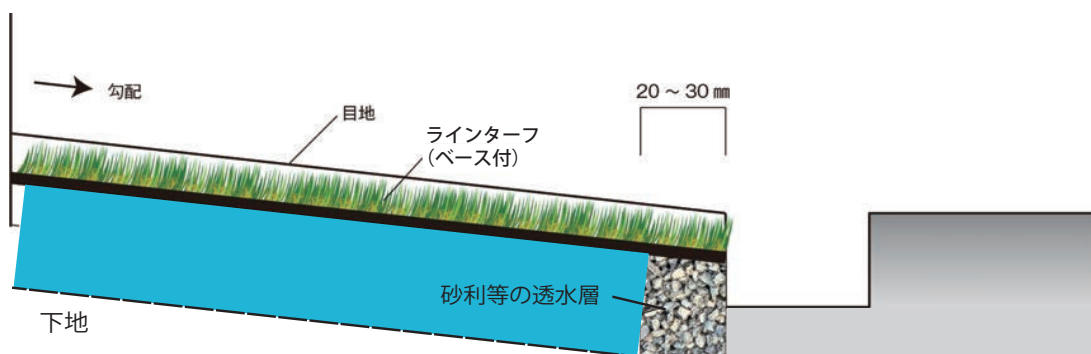
ラインターフ (ベース付) のはめ込み・カット

- 目地にはめ込むだけの簡単施工です。幅など合わない部分は目地やベース材を調整してはめ込んで下さい。
- 継目に段差ができる場合、もしくは隙間ができる場合は状況に応じてベース部分のみを削り (ラインターフは切らない)、突き合わせる事で調整することができます。
※ベース部分を加工する場合はカッターナイフ等で加工することができます。加工する際はケガには十分ご注意ください。
- 芝が倒れた状態になっている場合があります。倒れている場合は起こすようにして下さい。
芝が起きにくい場合はスチーム等をご使用下さい。

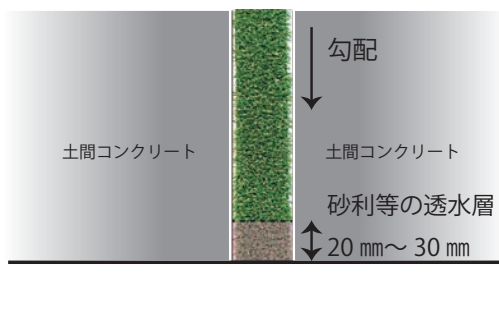


<ラインターフ (ベース付) の加工>

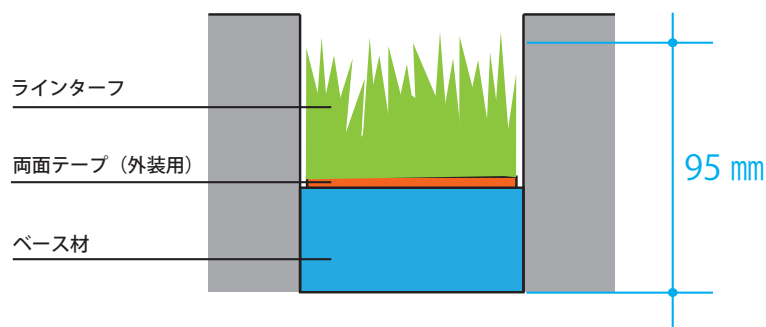
- ①ベース材にカットラインを書く
- ②カットラインに沿ってベース材をカット
(塩ビパイプ等を切る歯の細かいノコギリを使用するときれいに切れます。)
- ③ベース材がカットできたらカッター (黒刃) でラインターフを切ります。
このとき、両面テープが付いている為、多少切りにくいのでご注意ください。
また、ラインターフを切るときに裏面から切ることであまり芝糸を切らずに加工することができます。



【施工断面図】



【水勾配先端部の上面図】



【ラインターフ (ベース付) 施工断面図 正面】

<注意事項>

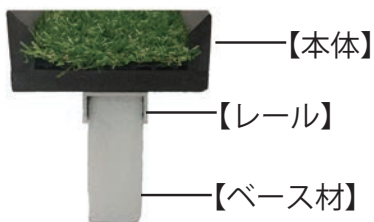
- W=67mmを基本寸法としますが、+1～2mmの誤差が生じる場合があります。
- 製品の特性上、芝が倒れた状態になっている場合があります。倒れている場合は起こすようにして下さい。
芝が起きにくい場合はスチーム等をご使用下さい。
- 防災製品ですが、火気厳禁であり、高温のものを上に置くと変形や熔けるおそれがあります。
スチームをご使用する場合も適度に離してご使用下さい。
- 芝目がありますので、芝が逆立って見えるように芝の先端方向が正面に向くように施工して下さい。
- 水はけの悪い場所でご使用する場合はカビ等が発生する可能性がありますので排水勾配等を設けて施工して下さい。
- 住宅の外壁と同じように使用年数の経過とともに多少色落ちする場合があります。
- カットする場合は裏面よりカッターナイフ（黒刃）等でカットして下さい。
ベース材をカットする場合は塩ビパイプ等を切るような歯の細かいものを使用すると容易に切ることができます。
また、パイルが縫い込んである部分をカットすると、パイルが多少抜けることがあります。
- ラインターフ同士をジョイントする場合は、ジョイント部をしっかりと突き合わせ施工する事で継目が目立たなくなります。また、基布の部分が目立つ場合は基布をカットする事で目立たなくなります。
- 施工後に目地が冠水したり、水がたまりやすくなるとベース材が浮く可能性があります。
冠水地域や水がたまりやすい場所への施工では下地にモルタルを入れ、専用接着剤で接着して下さい。
- ラインターフ（ベース付）に使用しているベース材とモルタル、コンクリートは専用接着剤で接着が可能ですが、硬化までに時間が掛かります。（接着剤に溶剤は含まれておりません）
専用接着剤は、水性で水分が多い為（約30%）、硬化後に若干の縮みがあります。
接着剤に含まれている水分がなくなることで硬化する為、養生期間は3日以上必要になります。
また、接着する下地が樹脂モルタル、ポリマー入りのモルタルの場合、モルタルが接着剤の水分を吸収しにくい為、硬化までに時間が掛かります。養生期間を3日以上みるようにして下さい。
同様に水分が多い下地や高湿度（80%以上）の際は固まりにくくなりますので、養生期間を十分みるようにして下さい。ただし、水分が全くない状態では使用できなくなる恐れがある為、夏場の施工で接着面の表面温度が高い場合は、打ち水を行う等をして接着面の表面温度を下げてください。
- 専用接着剤は乾燥する前に雨に当たると溶けてしまいます（水性の為、接着面に水が流れることで溶けます）。
雨が降りそうなときは施工を見合わせて下さい。
- 専用接着剤は凍結すると使用不可能になります。冬場の施工、保管には十分ご注意ください。
- 本製品は材質上、静電気が発生する可能性がありますので、ご注意ください。
なお、静電気は乾燥により発生しやすくなる為、散水する事で多少改善致します。
- ラインターフ（ベース付）は施工時に目地のレイタンス（※）が悪い場合、無理やり押し込むとベース部分が割れる可能性があります。必ずレイタンスを除去し下地を整えてからご使用下さい。
- ラインターフ（ベース付）に使用しているベース材は土中に埋めても加水分解しませんが、虫に食べられる可能性があります（餌にはなりません）。土の上に施工する場合はご注意ください。
- ラインターフ（ベース付）に使用しているベース材は運動靴や安全靴で踏んでも跡が付く程度ですが、ベース材がたわんでいる状態で衝撃（踏みつける等）が加えられると割れる可能性がありますのでご注意ください。
また、ヒール等先が尖っているもので踏みつけた場合は穴が開く可能性があります。

※レイタンス：コンクリートを打ち込み後、水とともに浮き上がってくる、石灰質などの微粒子。

ラインターフNEXT 標準施工

①

土間打ち前の準備



<下準備>

- ・梱包してある状態からベース材（発泡スチロール）を取り出し、本体裏側のレールにはめ込みます。
- ・ラインターフ NEXT 本体同士をジョイントする場合は片側に付属の防水テープを継目に貼り付けて下さい。（伸縮対策）
- ・コンクリート付着防止に養生テープを貼り付けます。（養生テープ 別売）土間打ちまでに貼り付けて下さい。
- ・ラインターフ表面より水下方向へ排水しますので、必ず排水勾配を設けて施工して下さい。

<土間打ちまでの準備>



①ベース材のはめ込み



②モルタルを敷きベース材を固定し、水糸に合わせて勾配や傾きを調整する（水糸を2本張って天端を合わせることで、調整がしやすくなります）



③汚れの清掃



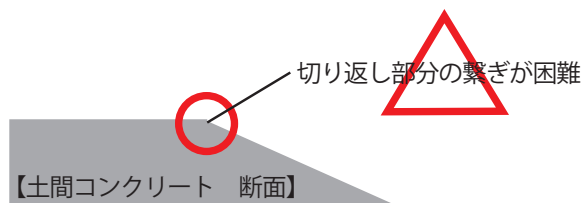
④ベース材へモルタルを擦り付け、固定する



⑤養生テープの貼り付け



※勾配が変わる土間への使用については、本商品が直線のみの為、繋ぎ合わさる際に隙間が生じます。その為、土間勾配が一定方向の現場でのご使用をお勧め致します。



①

土間打ち前の準備

【ジョイント方法】

<直線>レールにはめ込んだベース材をずらし、接続する方のレールに繋ぎ合わせます。(ベース材は 300 mm以上繋ぐ)



継目の緩衝材 (防水テープ) の貼り付け

※ベース材は 200 mm程度ならば開いても可



本体に付属されている防水テープをカットし、ジョイントする片側の端部に貼り付けます。

<クロス部>



クロスジョイント (別売) を用いて繋ぎ合わせます。ラインターフNEXTのレールを切っている部分をクロスジョイントにはめ込み、ベース材で繋ぎ合わせます。

ペイプメント

②

土間打ち完了



汚れは取り除いて下さい



<土間打ち～仕上げ>

- ・モルタルでベース材が固定ができれば土間打ちを行います。ラインターフ NEXT の天場と合わせて土間を打ってください。クロスジョイント部・本体直線部共にコンクリート打設時にバイブレーター等を用いて、ラインターフ NEXT 本体周り (クロスジョイント部周り) にしっかりとコンクリートが充填できるよう施工して下さい。また、充填が不十分な場合、クラック、隙間等の原因となる可能性がありますのでご注意下さい。クロスジョイント部は必要に応じて面木を使用したり、面取りを施して下さい。
- ・はみ出したノロはブラシ等で取り除き、養生テープをはがしたら汚れている部分を拭き取り、施工完了です。

ラインターフNEXT 標準施工

③

その他



<ラインターフNEXTの加工>

- ① ベース材を外してサンダー等でカットします。
- ② カットした端部を付属のビス(3本)で留めて補強します。

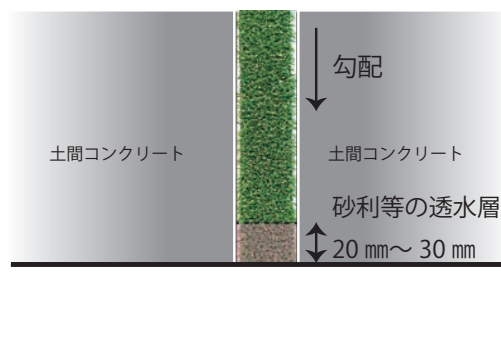
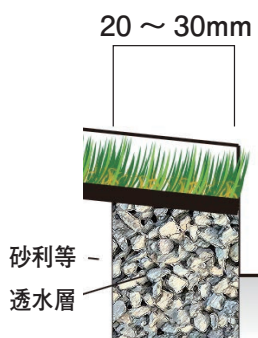


<水勾配先端部の加工>

- ① ベース材 20mm～30mm控えてレールにはめ込みます。
- ② 人工芝部分をめくり、上から数か所穴を開けて水が浸透するようにします。(ドリル等を用いて穴を開けて下さい。本商品の材質は本体が樹脂、レール部分がアルミです。)



水抜き穴



【水勾配先端部の断面図と上面図】

<ラインターフNEXT クロスジョイント使用時の注意点>

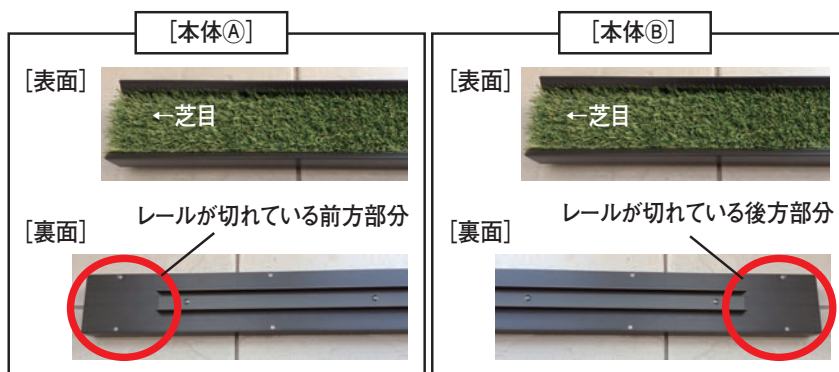
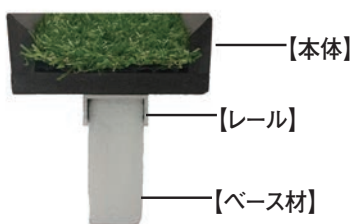
<クロスジョイント>



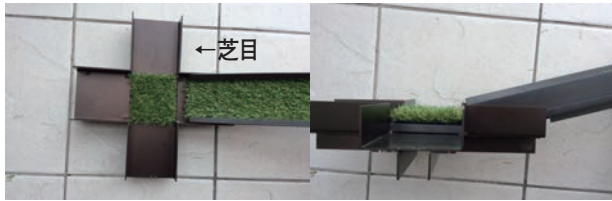
<クロスジョイントと本体の芝目について>

- ・クロスジョイントはラインターフNEXTを用いた土間コンクリート目地工事における十字形成の補助材となる商品です。
- ・クロスジョイントはラインターフNEXT本体と一体になる仕様です。ラインターフNEXT本体裏面のレールが切れている部分をクロスジョイントにはめ込むことができます。その際、ラインターフNEXT本体の芝目にご注意下さい。本体には①と②があり、それぞれ1本ずつを1setとしております。①と②は芝の向きを揃えた際にそれぞれ裏面のベース材をはめ込むレールを切っている部分が異なります。芝目に注意してクロスジョイントと結合して下さい。芝目が逆向きになりますと、施工完了後の見た目が悪くなります。

<ラインターフNEXT 本体仕様>



<クロスジョイントの使用法>



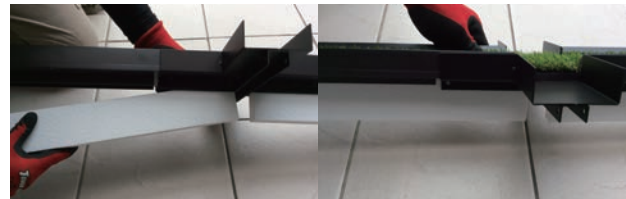
①クロスジョイントへ本体①のはめ込み
(クロスジョイントとも芝目を合わせます。)



②ベース材をレールにはめ込み、固定します。



③クロスジョイントへ本体②のはめ込み



④ベース材をレールにはめ込み、固定します。



⑤同様に別方向も結合します。(別方向は中央部分の芝目は合いません)

<注意事項>

- 基本寸法から、+1～2mmの誤差が生じる場合があります。
- 製品の特性上、芝が倒れた状態になっている場合があります。倒れている場合は起こすようにして下さい。
芝が起きにくい場合はスチーム等をご使用下さい。
- 人工芝部分は防災製品ですが、火気厳禁であり、高温のものを上に置くと変形や熔けるおそれがあります。
スチームをご使用する場合も適度に離してご使用下さい。同様に、枠材に使用している部材はポリスチレン
ですので、火気があたり続けると軟化や融解を致します。
- 芝目がありますので、芝が逆立って見えるように芝の先端方向が正面に向くように施工して下さい。
- 水はけの悪い場所でご使用する場合はカビ等が発生する可能性がありますので排水勾配等を設けて施工して下さい。
- 住宅の外壁と同じように使用年数の経過とともに多少色落ちする場合があります。
- 人工芝部分は材質上、静電気が発生する可能性がありますので、ご注意下さい。
なお、静電気は乾燥により発生しやすくなる為、散水する事で多少改善致します。
- ラインターフ同士をジョイントする場合は、ジョイント部をしっかりと突き合わせ施工する事で継目が目立たなくなり
ます。また、基布の部分が目立つ場合は基布をカットする事で目立たなくなります。
- ラインターフNEXTの枠材に使用しているポリスチレンについての注意事項
 - ・伸縮する可能性があり、使用年数の経過とともに劣化して参ります。
 - ・強い衝撃を与えると変形やキズの原因となります。
 - ・軟化や融解をするため、火気厳禁(上記参照)
 - ・化学的性質は弱酸性・アルカリ性・塩類等には優れた抵抗性を持っておりませんが、アルコール系以外の
有機溶剤や石油類に侵されやすいので、触れると変色する原因となります。
 - ・表面に付着した汚れを長期間そのままにしておくと、変色など腐食の原因になる可能性がございます。
 - ・お手入れには布やスポンジなどの柔らかいものをご使用下さい。金属ブラシ、金ペラ、スチールウール、
目の粗い紙やすり等は使用しないで下さい。また、小石、砂等が付着したまま表面をこするとキズがつきます。
あらかじめ取り除いて下さい。

Kターフ (DUO・V) 標準施工 (下地:土)

①

整地工



<下地>

- ・下地は透水性の良い土をご使用下さい。
- ・目の粗い碎石の場合、ピンが効かないおそれがあります。
- ・下地の透水性が悪い場合は排水勾配を設け、必要に応じて水下部に側溝等の排水設備を設けて下さい。
(水はけが悪い場合は水たまりやカビの原因になります。)

<整地と転圧>

- ・不陸の無いように整地した後、プレート等でしっかりと転圧して下さい。転圧不足は施工後の不陸による浮きやシワの原因になります。

②

シート敷設



<シートの敷設>

- ・Kシート (またはジョイントシート) を土上に敷設します。
- ・Kシートの継目は 10cm 以上重なるように施工して下さい。

<ピンでの固定>

- ・平米あたり 3 本～4 本を目安にしっかりと固定して下さい。防草シートの浮きやシワが施工不良の原因になる可能性がある為、特に端部や浮きが目立つところはしっかりと固定して下さい。

③

本体準備



端部のカット

<シワ伸ばし>

- ・Kターフ本体はロール状で発送されますので、巻癖がついている場合があります。巻癖がある場合は逆巻したり、スチームクリーナー等で伸ばしてから使用して下さい。

<端部カット>

- ・Kターフ本体の芝の縫目には約 7 mm の間隔があります。継目の施工時は端部の縫目から出ている基布をカットすることで、継目が目立たなくなります。(左図参照)

<仮敷きと細部カット>

- ・Kターフ本体は裏面よりカッター (黒刃) で切るようにして下さい。表面から切ると芝糸が切れてしまい、きれいに仕上がりにません。
- ・必ず仮敷きを行い、現場の形状に合わせて細部をカットして下さい。仮敷きを行わずに施工すると細部のズレやシワ等の原因になります。
- ・**Kターフ本体は熱により収縮が起こる可能性があります。**直射日光が当たりやすい場所への施工では、端部については熱による収縮を考慮し、少し長めにカットして端部を仕上げして下さい。(収縮率0.5%程度)
- ・仮敷きの際は必ず芝目を合わせて下さい。芝目はお施主様が芝を見る方向に対して芝が逆立って見えるように施工して下さい。(左図は芝目の合わせ不良)
- ・障害物がある場合は切れ込みを入れたり、くり抜くことで障害物に合わせて加工しやすくなります。



芝目の合わせ不良



細部のカット

④

接着剤の塗布



- ・水抜き穴や継目に注意して接着剤を塗布して下さい。水抜き穴や継目から接着剤がはみ出すと芝が固まり、景観を損ねます。また、下地に水を透水させる場合、水抜き穴を塞いでしまうと十分な排水が出来ません。はみ出した接着剤は付属の拭取り剤で拭取して下さい。
- ・接着剤は下地またはKターフ本体に塗布して下さい。塗布量の目安は下地によっても異なりますが、下地がKシートの場合は塗り面積に対して 500g/m²です。
- ・接着剤は継目と端部に塗布して下さい。また、浮きが見受けられる部分についても接着剤を塗布し、圧着して下さい。
- ・接着剤の溶剤が気化する際のガスで浮きが出る可能性がある為、**オープンタイムを十分取って**下さい。

⑤

Kターフ(DUO・V)本体の敷設



- ・端から順に貼り合わせると端部の調整がしやすくなります。
- ・継目については両端をつまんで貼り合わせることで芝糸が巻き込まれずに施工出来る為、継目が目立ちにくくなり、調整もしやすくなります。

左図：継目を調整し、貼り合わせている様子

⑥

養生完了



<圧着と養生>

- ・施工後、特にシワがついている場合はしっかりと伸ばし、浮きが見受けられる場合はその部分をしっかりと圧着し、養生して下さい。
- ・左図のように浮きが心配な部分にコンパネや土嚢袋等で養生すると施工後の浮きやシワを抑えることができます。

Kターフ (DUO・V) 標準施工 (下地:コンクリート等)

①

下地



<下地の確認>

- ・新設のコンクリートの場合は養生をしっかりと取り、乾燥状態になってから施工するようにして下さい。
下地がアスファルトの場合、油分が残っていると接着剤が使用できません。
しっかりと乾燥しているかどうかを確認下さい。
(新設のアスファルトへの接着施工はお薦めできません)
- ・下地がFRPの場合、そのままでは接着できない可能性があります。
表面を少し削ることで接着剤が馴染みやすくなりますが、接着可能かどうか試してから施工して下さい。
- ・表面の大きな不陸(凹凸)がある場合はモルタル等で表面が均一になるように補修して下さい。
- ・Kターフ (DUO・V) 表面より水下方向へ排水しますので、必ず排水勾配を設けて施工して下さい。

<清掃>

- ・表面のゴミやホコリ、油分等を除去して下さい。
ゴミやホコリ、油分等が残っていると接着不良の原因になります。

②

本体準備



<シワ伸ばし>

- ・Kターフ本体はロール状で発送されますので、巻癖がついている場合があります。巻癖がある場合は逆巻したり、スチームクリーナー等で伸ばしてから使用して下さい。

<端部カット>

- ・Kターフ本体の芝の縫目には約7mmの間隔があります。
継目の施工時は端部の縫目から出ている基布をカットすることで、継目が目立たなくなります。(左図参照)

端部のカット <仮敷きと細部カット>

- ・Kターフ本体は裏面よりカッター(黒刃)で切るようにして下さい。
表面から切ると芝糸が切れてしまい、きれいに仕上がりにません。
- ・必ず仮敷きを行い、現場の形状に合わせて細部をカットして下さい。
仮敷きを行わずに施工すると細部のズレやシワ等の原因になります。
- ・**Kターフ本体は熱により収縮が起こる可能性があります。**
直射日光が当たりやすい場所への施工では、端部については熱による収縮を考慮し、少し長めにカットして端部を仕上げして下さい。
(収縮率0.5%程度)
- ・仮敷きの際は必ず芝目を合わせて下さい。
芝目はお施主様が芝を見る方向に対して芝が逆立って見えるように施工して下さい。(左図は芝目の合わせ不良)
- ・障害物がある場合は切れ込みを入れたり、くり抜くことで障害物に合わせて加工しやすくなります。



芝目の合わせ不良



細部のカット

③

接着剤の塗布



- 水抜き穴や継目に注意して接着剤を塗布して下さい。水抜き穴や継目から接着剤がはみ出すと芝が固まり、景観を損ねます。下地がコンクリートの場合、表面排水となる為、水抜き穴は養生テープで塞いでも構いません。はみ出した接着剤は付属の拭取り剤で拭取って下さい。
- 接着剤は下地またはKターフ本体に塗布して下さい。塗布量の目安は下地によっても異なりますが、塗り面積に対して
コンクリートの場合は 500g～600g/㎡
アスファルト等の場合は 600g～800g/㎡
- 接着剤の溶剤が気化する際のガスで浮きが出る可能性がある為、**オープンタイムを十分取って**下さい。

④

Kターフ(DUO・V)本体の敷設



- 端から順に貼り合わせると端部の調整がしやすくなります。
- 継目については両端をつまんで貼り合わせることで芝糸が巻き込まれずに施工出来る為、継目が目立ちにくくなり、調整もしやすくなります。

左図：継目を調整し、貼り合わせている様子

⑤

養生完了

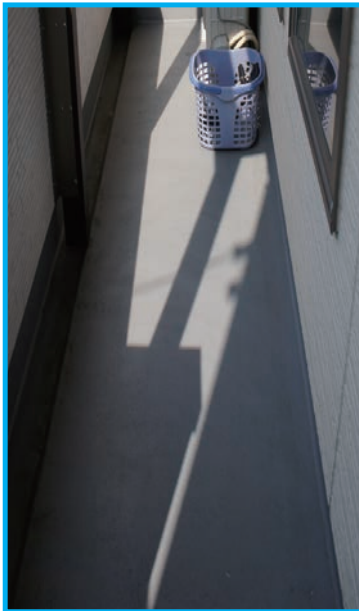


- <圧着と養生>
- 施工後、特にシワがついている場合はしっかりと伸ばし、浮きが見受けられる場合はその部分をしっかりと圧着し、養生して下さい。
 - 左図のように浮きが心配な部分にコンパネや土嚢袋等で養生すると施工後の浮きやシワを抑えることができます。

Kターフ (DUO・V) 両面テープでの施工

①

ジョイントシートの準備と
下地の確認



<ジョイントシートの準備>

- ・本製品は樹脂製品につき、温度差による伸縮があります。継目にジョイントシートを使用（別売接着剤）することで、継目の（ジョイント部）の開きを軽減します。

<下地の確認>

- ・新設のコンクリートの場合は養生をしっかりと、乾燥状態になってから施工するようにして下さい。
- ・両面テープの厚みが約1mmですので、表面に大きな不陸（凹凸）が多数ある場合は粘着力が低下する恐れがあります。モルタル等で表面が均一になるように補修して下さい。
- ・Kターフ (DUO・V) 表面より水下方向へ排水しますので、必ず排水勾配を設けて施工して下さい。

<清掃>

- ・表面のゴミやホコリ、油分等を除去して下さい。
ゴミやホコリ、油分等が残っていると接着不良の原因になります。

②

本体準備



端部のカット

<シワ伸ばし>

- ・Kターフ本体はロール状で発送されますので、巻癖がついている場合があります。巻癖がある場合は逆巻したり、スチームクリーナー等で伸ばしてから使用して下さい。

<端部カット>

- ・Kターフ本体の芝の縫目には約7mmの間隔があります。継目の施工時は端部の縫目から出ている基布をカットすることで、継目が目立たなくなります。（左図参照）

<仮敷きと細部カット>

- ・Kターフ本体は裏面よりカッター（黒刃）で切るようにして下さい。表面から切ると芝糸が切れてしまい、きれいに仕上がりません。
- ・必ず仮敷きを行い、現場の形状に合わせて細部をカットして下さい。仮敷きを行わずに施工すると細部のズレやシワ等の原因になります。
- ・Kターフ本体は熱により収縮が起る可能性があります。直射日光が当たりやすい場所への施工では、端部については熱による収縮を考慮し、少し長めにカットして端部を仕上げして下さい。（収縮率0.5%程度）
- ・仮敷きの際は必ず芝目を合わせて下さい。芝目はお施主様が芝を見る方向に対して芝が逆立って見えるように施工して下さい。（左図は芝目の合わせ不良）
- ・障害物がある場合は切れ込みを入れたり、くり抜くことで障害物に合わせて加工しやすくなります。



芝目の合わせ不良



細部のカット

③ 両面テープの貼付



- ・両面テープはKターフ本体に貼り付けて下さい。敷地の形状にもよりますが、貼付目安は10㎡あたり3巻～4巻です。
- ・水勾配を考慮し、水路を妨げないように貼り付けて下さい。
- ・継目にジョイントシートを使用する場合はジョイントシートの中心部にKターフ本体の継目がかかるように割り付けた後、ジョイントシートに両面テープを貼り付け、圧着して下さい。

④ Kターフ(DUO・V)本体の敷設と継目の接着



継目を調整し、貼り合わせている様子

- <本体の敷設>
- ・端から順に貼り合わせると端部の調整がしやすくなります。
 - ・継目については両端をつまんで貼り合わせることで芝糸が巻き込まれずに施工出来る為、継目が目立ちにくくなり、調整もしやすくなります。



ジョイントシートに接着剤を塗布する様子 (写真は下地が土)

- <継目の接着>
- ・水抜き穴や継目に注意して接着剤を塗布して下さい。水抜き穴や継目から接着剤がはみ出すと芝が固まり、景観を損ねます。両面テープ施工の場合、継目は表面排水となる為、水抜き穴は養生テープで塞いでも構いません。はみ出した接着剤は付属の拭取り剤で拭取して下さい。
 - ・接着剤はジョイントシートに塗布して下さい。塗布量の目安は塗り面積に対して 500g/㎡です。
 - ・接着剤の溶剤が気化する際のガスで浮きが出る可能性がある為、**オープンタイムを十分取って**下さい。

⑤ 養生完了



- <圧着と養生>
- ・施工後、特にシワがついている場合はしっかりと伸ばし、浮きが見受けられる場合はその部分をしっかりと圧着し、養生して下さい。
 - ・特に継目は圧着、養生をしっかりと行って下さい。
 - ・その他、左図のように浮きが心配な部分にコンパネ等で養生すると施工後の浮きやシワを抑えることができます。

- <施工後の取外しについて>
- ・施工後に本体の取外しはできますが、両面テープが強力な為、下地にテープが付着する場合があります。ヘラを使用して剥がすと綺麗に剥がすことができます。

Kターフ (DUO・V) 屋上施工 (ジョイントシートによる継目の接着施工)

①

下地



<下地の確認>

- ・新設のコンクリートの場合は養生をしっかりと、乾燥状態になってから施工するようにして下さい。
下地がアスファルトの場合、油分が残っていると接着剤が使用できません。
しっかりと乾燥しているかどうかご確認下さい。
(新設のアスファルトへの接着施工はお薦めできません)
- ・下地がFRPの場合、そのままでは接着できない可能性があります。
表面を少し削ることで接着剤が馴染みやすくなりますが、接着可能かどうか試してから施工して下さい。
- ・表面の大きな不陸 (凹凸) がある場合はモルタル等で表面が均一になるように補修して下さい。
- ・Kターフ (DUO・V) 表面より水下方向へ排水しますので、必ず排水勾配を設けて施工して下さい。

<清掃>

- ・表面のゴミやホコリ、油分等を除去して下さい。
ゴミやホコリ、油分等が残っていると接着不良の原因になります。

②

本体準備 (シワ伸ばし・端部カット・細部カット)



<シワ伸ばし>

- ・Kターフ本体はロール状で発送されますので、巻癖がついている場合があります。巻癖がある場合は逆巻したり、スチームクリーナー等で伸ばしてから使用して下さい。

<端部カット>

- ・Kターフ本体の芝の縫目には約7mmの間隔があります。
継目の施工時は端部の縫目から出ている基布をカットすることで、継目が目立たなくなります。(左図参照)

端部のカット



芝目の合わせ不良

<細部カット>

- ・Kターフ本体は裏面よりカッター (黒刃) で切るようにして下さい。
表面から切ると芝糸が切れてしまい、きれいに仕上がりません。
- ・現場の形状に合わせて細部をカットして下さい。
細部のカットを行わず無理矢理現場に合わせるとズレの原因になります。
- ・Kターフ本体は熱により収縮が起こります。特に屋上では温度が高くなり易く、収縮も起こり易くなります。
端部については熱による収縮を考慮し、少し長めにカットして端部を仕上げして下さい。(収縮率0.5%程度)
- ・必ず芝目を合わせて下さい。
芝目はお施主様が芝を見る方向に対して芝が逆立って見えるように施工して下さい。(左図は芝目の合わせ不良)
- ・障害物がある場合は切れ込みを入れたり、くり抜くことで障害物に合わせて加工しやすくなります。



細部のカット

③ ジョイントシートの敷設と接着



ジョイントシートに接着剤を塗布する様子（写真は下地が土）



継目を調整し、貼り合わせている様子

<ジョイントシートの敷設>

- ・継目についてはジョイントシートを使用して下さい。ジョイントシートの中心部にKターフ本体の継目がかかるように割り付けた後、ジョイントシートと接着剤で継目を接着します。
- ※ジョイントシートを使用し、継目を接着することで施工後の継目の開きを抑えることができます。

<継目の接着>

- ・接着剤はジョイントシートに塗布して下さい。塗布量の目安は塗り面積に対して 500g/㎡です。
- ・水抜き穴や継目に注意して接着剤を塗布して下さい。水抜き穴や継目から接着剤がはみ出すと芝が固まり、景観を損ねます。継目は表面排水となる為、水抜き穴は養生テープで塞いでも構いません。はみ出した接着剤は付属の拭取り剤で拭取して下さい。
- ・接着剤の溶剤が気化する際のガスで浮きが出る可能性がある為、**オープンタイムを十分取って**下さい。
- ・継目については両端をつまんで貼り合わせることで芝糸が巻き込まれずに施工出来る為、継目が目立ちにくくなり、調整もしやすくなります。

ハイブリット

④ 養生完了



圧着・養生の様子



施工完了後の様子

<圧着と養生>

- ・施工後、特にシワがついている場合はしっかりと伸ばし、継目部分で浮きが見受けられる場合はその部分をしっかりと圧着し、コンパネや土嚢袋等で養生して下さい。
- ・Kターフは日数の経過とともに下地に馴染んでいきます。

Kターフ (DUO・V) その他

施工道具

<施工時に使用する道具と用途>

- ・カッターナイフ (黒刃)
Kターフ、Kシート等を加工する際に使用します。
- ・定規 (鋼尺)、巻尺 (スケール)
現場の採寸、直線を切るときに使用します。
※スタッフがあると長い距離を切るときに便利です。
- ・ハンマー
固定ピンの固定に使用します。
- ・マーカー (建築用ペン、チョーク、チョークライン等)
加工するラインをKターフ本体裏面に書き込むことで加工しやすくなります。
チョークラインは継目の目印として使用でき、接着剤を塗布する際に役立ちます。
- ・転圧機 (プレート)、整地道具
下地の調整に使用します。
- ・掃除機またはプロアー
施工後の掃除に使用します。
- ・養生用資材 (コンパネ、土嚢袋等)
圧着、養生を行う際に使用します。

<その他あったら便利なもの>

- 養生テープ 継目部分の芝に貼ることで接着剤を塗布する際に接着剤が芝に付着するのを防止できます。
- 熊手 施工後に芝を立てる際に便利です。(先が尖っているものは不可)
- スチールクリナー Kターフ本体のシワ伸ばしに使用します。(長時間同じ場所を温めると芝が縮れる場合があります)

接着剤施工時の注意点

<接着不良の原因>

- ・下地が十分に乾燥しているか確認します。
- ・塗布面を清掃し、ゴミやホコリ、土砂等を除去します。
- ・接着剤が硬化する前の水分の混入は避けて下さい。

オープンタイム・貼付け可能時間の目安

	オープンタイム	貼付け可能時間 (オープンタイム後)
夏(25℃~35℃)	10~20分	40~60分
春・秋(15℃~25℃)	10~20分	40~60分
冬(5℃~15℃)	20~30分	40~60分

- ※下地の状況により変わります。
- ※指で触って表面に薄い皮が張り始めたら施工して下さい。
- ※接着剤に触れて粘着性があるうちは貼り合わせ可能です。

硬化時間の時間

	硬化時間
夏(25℃~35℃)	約1日
春・秋(15℃~25℃)	約1日
冬(5℃~15℃)	約2日

- ※冬場で湿気が少ない場合は、硬化する時間が少し長く(プラス1日~2日)掛かります。

★1:本書でのオープンタイムとは接着剤を塗布してから貼り合わせるまでの待ち時間をさします。

＜その他注意事項＞

- パイル長については ±2mm程度は誤差があります。
- 本製品は材質上、夏場の暑さや冬場の寒さにより伸縮が発生する可能性があります。
特に暑さによる収縮については試験値では最大 0.5%の収縮が起こりますが、収縮率は設置条件、気象状況により異なりますのでご注意ください。日照が続くような施工場所では端部に余裕を持たせて施工する事をお勧めします。
- 本製品の色合いは生産ロットにより見本と多少異なる場合があります。
- 本製品は多少の色ムラがございますが、品質には問題ありません。人工芝のパイルを立たせることで色ムラは目立たなくなります。
- 使用頻度や使用状況により、パイルの磨減を早める可能性がありますのでご注意ください。
- 本製品の裏面はパイルを保護するためのコーティングを施してあります。
コーティングを剥がすとパイルが抜けるおそれがありますので、決して剥がさないで下さい。
- 発送時にはロール状に梱包し発送する為、シワや折り目等がついている場合があります。
シワや折り目については逆巻にしたり、スチームを使用してシワや折り目を補正して下さい。
- 本製品はあくまで景観用途の製品ですので、競技用途での使用はお勧めしません。
- 人工芝の上でスライディングすると擦過傷を起こすことがあります。
- 勾配がある場所に本製品を施工した場合や、本製品が水に濡れた場合は転倒等にご注意下さい。
- 製品規格、色合いを予告なしに変更する場合があります。
- Kシートツインを砂利下でご使用する場合、使用する砂利が尖っていると破れる可能性があります。
尖った砂利をご使用する際は、Kシート250(強力タイプ)をご使用下さい。
- Kシートツインは表層シートとしてお使い頂くには適しておりません。
表層でご使用する場合はKシート250(強力タイプ)をご使用下さい。
Kシートツインを表層でご使用した場合、熱による伸縮や紫外線による劣化が起こりやすくなり、破れの原因になります。
必ず砂利下でご使用頂き、砂利は 10cm以上敷いてご使用下さい。砂利が薄い場合も同様の現象が起こる可能性がありますので、ご注意ください。
- 窓やガラス戸の近くに本製品を設置する場合、太陽光の反射熱により、直毛部分が縮れ枯草部分が目立つようになる可能性があります。
材質上、熱に弱い為、熱が高くなるような場所に設置する場合はご注意ください。
- 防災製品ですが、火気厳禁であり、高温のものを上に置くと変形や熔けるおそれがあります。
スチームをご使用する場合も適度に離してご使用下さい。
- 水はけの悪い場所でご使用する場合はカビ等が発生する可能性がありますので排水勾配等を設けて施工して下さい。
- 住宅の外壁と同じように使用年数の経過とともに多少色落ちする場合があります。
- カットする場合は裏面よりカッターナイフ等でカットして下さい。
また、パイルが縫い込んである部分をカットすると、パイルが多少抜けることがあります。
- 専用接着剤は水性で水分が多い為（約 30%）、硬化後に若干の縮みがあります。
接着剤に含まれている水分がなくなることで硬化する為、養生期間は 1日以上必要になります。
また、接着する下地が樹脂モルタル、ポリマー入りのモルタルの場合、モルタルが接着剤の水分を吸収しにくい為、硬化までに時間が掛かります。養生期間を 3日以上みるようにして下さい。
同様に水分が多い下地や高湿度（80%以上）の際は固まりにくくなりますので、養生期間を十分みるようにして下さい。ただし、水分が全くない状態では使用できなくなる恐れがある為、夏場の施工で接着面の表面温度が高い場合は、打ち水を行う等をして接着面の表面温度を下げてからご使用下さい。
- 専用接着剤は乾燥する前に雨に当たると溶けてしまいます（水性の為、接着面に水が流れることで溶けます）。
雨が降りそうときは施工を見合わせて下さい。
- 専用接着剤は凍結すると使用不可能になります。冬場の施工、保管には十分ご注意ください。

ストーンジョイント

ストレートタイプ



1 モルタルを置きます。



2 商品を置き、土間に合わせます。



3 つなぎ施工の際はレールと土台をずらして (10cm以上推奨)ジョイントします。



4 両側にモルタルで商品を固定します。
(目地無しタイプは施工工程の7に進みます。)



5 目地をつめます。



6 余分な目地材を拭き取ります。



7 石をテープ養生し土間を打ちます。コテで均します。(土間は石の面より1~2mm程度下げます)



8 テープ養生をはがし、面取り不要で完成です。

ストレートタイプ+アールタイプ (目地あり)



1 モルタルを置きます。



2 付属品のT字ブラケットを商品土台に均等に付けます。



3 Rの曲がり具合によって石を取り外し、目地の広さを調整して下さい。(石部分は仮止めのため、自由に取り外し可能です。)



4 商品を置き、水平機で土間面の高さに合わせます。



5 つなぎ施工の際はアールタイプに付属している「コ」の字型部材を下にはめ、ジョイントして下さい。



6 ジョイント部分は横スレ防止の為、特にしっかりとモルタルで固定して下さい。



7 ストレートタイプとアールタイプが交差する箇所の施工はアールタイプの石部分を取り外し、角度を合わせ切り取って施工して下さい。



8 両側にモルタルを置き商品を固定します。



9 目地をつめます。



10 余分な目地材を拭き取ります。

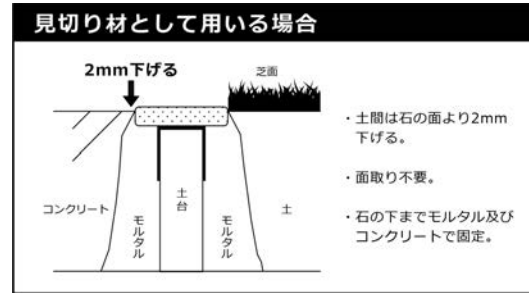
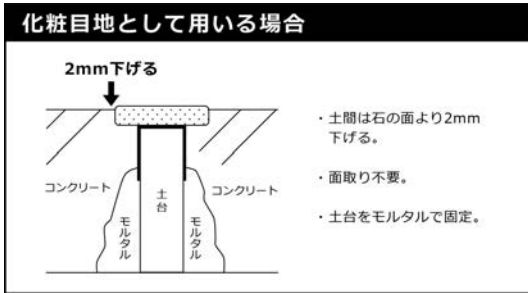


11 石をテープ養生し土間を打ちます。コテで均します。コテで均します。(土間は石の面より1~2mm程度下げます)



12 テープ養生をはがし、面取り不要で完成です。

ストレートとアールを組み合わせる場合は、ストレートも目地ありタイプのご使用をおすすめ致します。



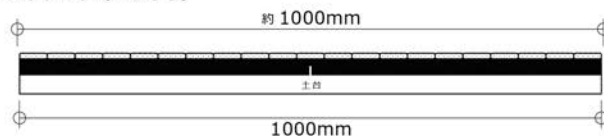
■ 仕様

タイプ	ストレート (目地なし / 目地あり)	アール (目地あり)
材質	化粧部分：自然石 / レール：ポリ塩化ビニル	
	土台：発砲スチロール	土台：発泡ポリエチレン
重量	約 1.5kg	
最小半径	-	30cm

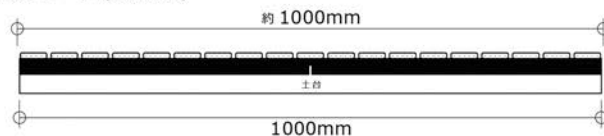
【付属品】 T字ブラケット (製品1本につき3個付属) : ポリ塩化ビニル

■ 寸法

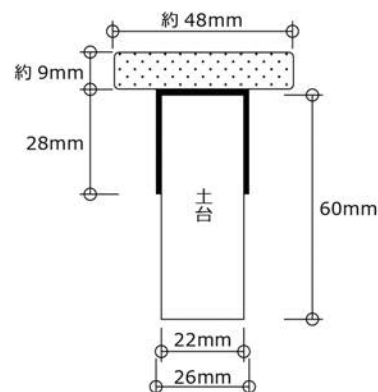
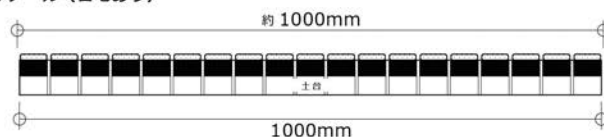
◆ストレート (目地なし)



◆ストレート (目地あり)



◆アール (目地あり)



※自然石を使用している為、石部分の寸法・厚み、重量には 多少の誤差があります。

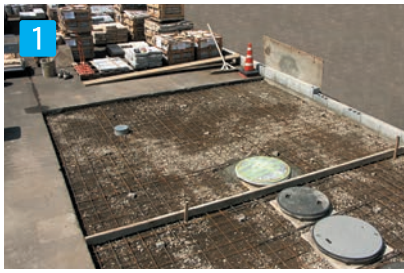
■ 施工上の注意

- 石の表面にモルタル・生コンなどの汚れが付着しないよう、養生テープを貼るか、速やかに拭き取り、汚れを防いで下さい。
- 見切り材として使用する場合は、石材部分が取れないように、モルタル・生コンでしっかりと固定して下さい。
- 以下の場所では使用しないで下さい。
 - ・4t以上の車両が駐車する場所
 - ・車両の交通量が多い場所
 - ・タイヤの切り替えしが多い場所
- 本製品をハンマーなどで叩かないで下さい。特に自然石の部分は、破損の恐れがあります。
- レール部(塩ビ素材)は、外気温の影響で多少の反りや歪みが生じるため、緩和策で両側中央に切り込みを施しています。状態により矯正して施工をお願いします。

■ 使用上の注意

- 本製品には自然石を使用しています。自然石は様々な色調・形状・模様があるのが特徴です。また、施工後は経年変化により変色・退色することがあります。
- お手入れの際は、水または中性洗剤を使用し、やわらかい素材のスポンジやブラシなどで、やさしく洗って下さい。(特に酸性のものは絶対に使用しないで下さい)
- 寒冷地では、凍結融解の恐れがあります。

アートクリートステンシル



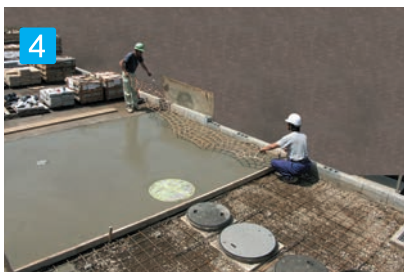
1 土間コンクリートの打設
コンクリート打設前に配筋を行います。



2 土間コンクリートはコテで均し、
表面を平らにしてください。



3 生コンクリート仕様の目安
夏場：強度：21以上 スランプ：15～18
冬場：強度：21以上 スランプ：10～12

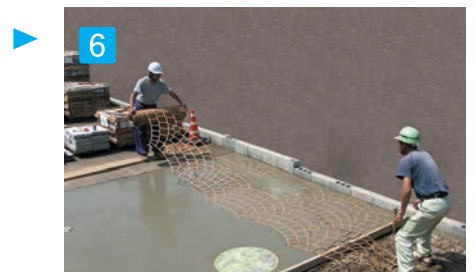


4 ステンシル(型紙)の貼り付け
ステンシルのサイド部分と施工範囲の区切り目とを
合わせコンクリート面に貼り付けます。



5 貼り付けたステンシルの中央部分から端側に向かって
木コテもしくはプラスチックコテにてステンシルが
ややコンクリートにめり込むように均していきます。

※ステンシルパターン(型紙)はツヤがある面を上側に
して使用して下さい。



6 2列目のステンシルを貼り付けるときは、前に貼り付
けたステンシルの端部と2列目のステンシル端部が重なり
合うように貼り付け、同じようにコテで均します。



7 ステンシルの端部や不必要な部分をはさみ等で切り落
とします。



8 ベースの色づけ
カラーハードナーのベース色をセメント表面部にまん
べんなく振りかけ、ハードナーの色が濃くなるまで
待ち、表面をコテ等で均しコンクリートと馴染ませ
ます。
ただし、水分量が少ないとハードナーとの密着が不十分
となり、剥離することがあり、水分量が多すぎると色ムラ
や白華が発生し易くなります。

フリージング
流し込んだ土間コンクリートの表面に水分が浮き出し
てくる現象。効果により色粉が定着します。



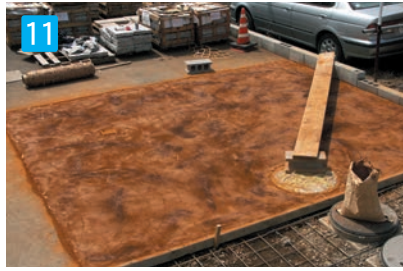
9 この作業を最低2回以上繰り返します。
アクセント色を付けない場合は、この作業で色付けは
終了となります。
※均しているときに下地コンクリートが引きずられて
見えてこなくなるまで繰り返す。
※ハードナーの量、コテのあて具合、水分量により表面
に様々な表情をつける事が出来ます。

<注意事項>

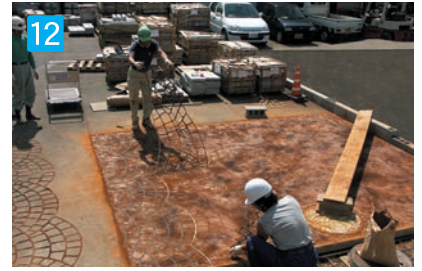
- ※外気温度が5℃以下の場合には施工を避けて下さい。特に夜間、気温が下がる冬場にはご注意ください。
- ※カラーハードナーが付着しないように状況に応じて養生して下さい。
- ※風の強い日や降雨の予想される日には施工を避けることをおすすめします。
- ※施工後、車両が乗り入れるまでには十分養生期間を取って下さい。
- ※夏と冬では、施工に要する時間に差が生じますのでご注意ください。特に夏の場合、土間コンクリートの乾燥が早いので、作業は迅速に行ってください。
- ※季節・天候・施工場所で差がありますが、生コンや色粉に含まれるアルカリ成分により表面に「白華」が出る場合があります。水分の影響が大きいと思われる。
 - ・白華の多い場合：希塩酸で洗浄し、水洗いして十分乾燥後にシーラーを塗布して下さい。
 - ・白華の少ない場合：シーラーを塗布することにより、かなり解消できます。



10
アクセントカラーの施工
 ベース色の上からアクセント部分のカラーハードナーを任意の量振りかけ、軽く均してからカラーハードナーをなじませます。



11
一次養生
 表面が乾燥するまで養生します(夏場で2~3時間、冬場で6~7時間目安)。



12
ステンシルの除去・補修・清掃
 表面を指で軽く押しても色が指に付着しなくなったら、ステンシルをはがし始めて下さい。



13
 バリが出たり、目地にカラーハードナーが染み込んだりしたところは、目地ゴテもしくは木ゴテを使い補修して下さい。



14
補修
 補修作業が終わりましたら、柔らかめのブラシ、もしくはフローアー等にて細かなセメントの欠片等を取り去って下さい。完全に硬化してからの除去は困難となります。白華が発生している部分は、ブラシ等で表面をこすり、白華を取って下さい。

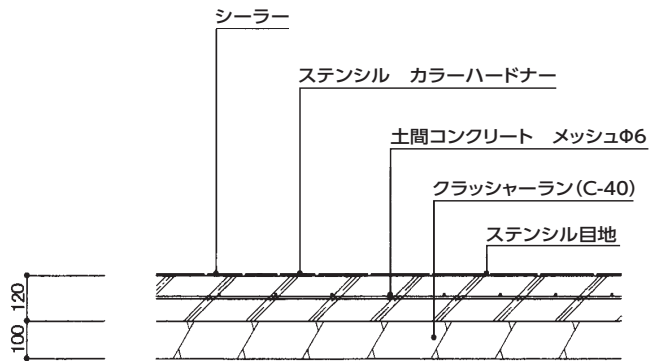


15
シーラーの塗布(2回塗りをお勧めします)
 施工後2~3日養生し、シーラーを刷毛、もしくはローラーにて塗布して下さい。
 ※シーラーは塗布後(晴天の状態)で6時間以上養生して下さい。



16
完成
 ステンシルパターン/フィッシュスケールN
 ベースカラー/サンドストーンN
 アクセントカラー/オータムブラウンN

施工断面図



白華防止剤についてのご案内

※施工要領手順【14】の後、表面が乾いた状態で白華防止剤を塗布して下さい。
 2~3日後に強度を出すために必ずシーラーを1回塗りして下さい。
 ※気温が低く乾燥が遅い、特に冬場の施工では、表面が乾いていない状態で白華防止剤を塗布しても含侵しないため、エフロが発生する場合があります。

フロアペイントステンシル



1 下地処理: 施工現場清掃作業。



2 下地専用プライマーを刷毛で塗布して下さい。

※目安時間: 夏場で5~10分 / 冬場で20~30分



3 接着専用プライマーを刷毛で塗布して下さい。



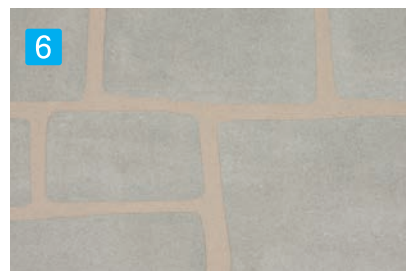
4 乳白色の接着専用プライマーが透明な状態(注意)になってから次工程に進んで下さい。

※目安時間: 夏場で30分程度 / 冬場で60分程度



5 ステンシルパターン(コプルストーンN)を市販のプラスチックローラーで十分密着させながら貼りつけて下さい。

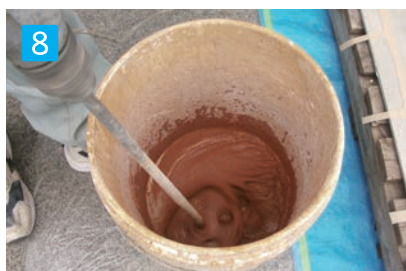
※ステンシルパターン(型紙)はツヤがある面を上側にして使用して下さい。



6 ステンシルパターンの貼りつけ完了。



7 パウダー(テラコッタN)に専用混和剤を混合して下さい。



8 パウダーと専用混和剤を攪拌機でよく混ぜ合わせて下さい。



9 1色使用。金コテで薄く塗り込んで下さい。塗り厚は0.5mmが目安です。

アクセントカラーを使用する場合



ベースカラー(ビーチN)の塗り込み後、速やかにアクセントカラー(テラコッタN)を塗布して下さい。ベースカラーの表面が乾いてしまうとアクセントカラーが密着せず施工不良になりますのでご注意下さい。施工には別売のアクセントカラー専用施工キットを使用すると塗布しやすくなります。



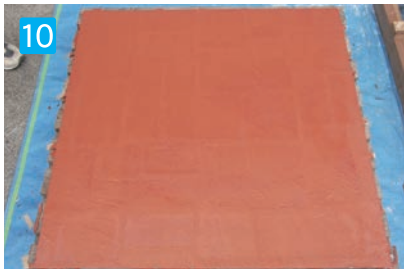
アクセントカラーを塗布したら金コテで軽く押えて下さい。



アクセントカラー使用例 施工完了。



アクセントパターン使用例 施工完了。

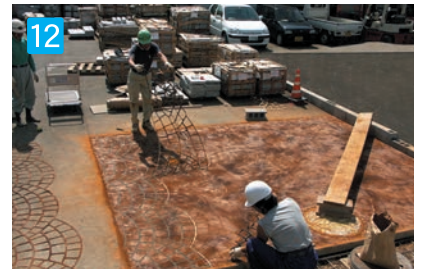


ステンシルパターンの模様がはっきり確認出来る程度に仕上げてください。表面が十分乾燥するまで養生して下さい。

※目安時間:夏場で120分程度/冬場で240分程度



ステンシルパターンを除去して下さい。



乾燥が不十分ですとステンシルパターンを除去したときに「バリ」が出やすくなりますのでご注意ください。

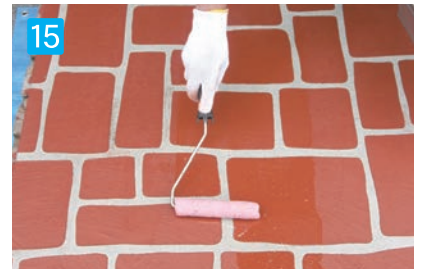


冬場の施工など白華の発生が予想される場合は必要に応じて、白華防止剤を塗布して下さい。



目地部に塗材が付着している場合は除去して下さい。上記の補修は白華防止剤を塗布してから行った方が除去しやすくなります。

※白華防止剤の乾燥目安:(晴天時)6時間以上



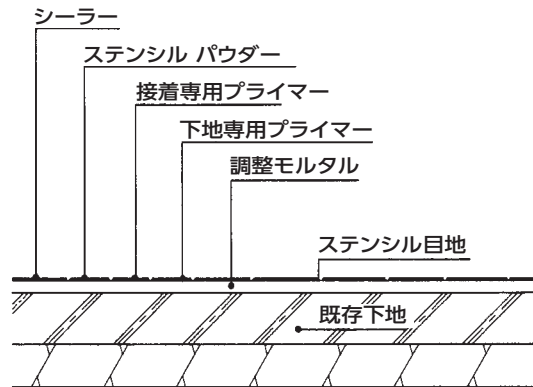
シーラーを塗布して下さい。(白華防止剤を塗布しない場合はシーラーを2回塗布して下さい。)

※シーラーの養生期間:
シーラー塗布後(晴天時)6時間以上



1色使用施工完了。

施工断面図



<注意事項>

- ※降雨が予想される場合、風が強い場合、気温が5℃以下の場合、施工を避けて下さい。
- ※表面に付着している油・泥・カビ・ペンキ等を適切な方法で除去して下さい。
- ※クラック・不陸を補修し表面を平滑に処理して下さい。
- ※既存土間コンクリートが刷毛引きや櫛引仕上げの場合や表面が荒れている場合には必ず補修し金コテで仕上げてください。
- ※施工する下地の表面が荒れているとステンシルパターンが密着せず施工不良の原因になります。
- ※接着用プライマーは透明にならないとステンシルパターンが密着するための接着効果が出ません。
- ※風で表面にゴミや埃が付着するとステンシルパターンの密着が悪くなり施工不良の原因になります。
- ※土足で施工面にのると泥などが付着してステンシルパターンの密着が悪くなり施工不良の原因になります。
- ※小面積向けの商品ですが、足場が確保できる場合や幅1m程度の細長いアプローチなど両サイドにスペースがある場合、また、パターン(型紙)を使用しない場合は施工が容易におこなえます。
- ※ステンシルパターンの貼付け密着作業には、市販のプラスチックローラーをご用意いただくと便利です。
- ※写真のカラーバリエーションにはシーラーを塗布してありますのでツヤがでています。
- ※施工下地は薄塗りのため、金コテ仕上げの下地に限定されます。
- ※施工厚みは、ステンシルパターンの厚みと同じ0.5mmが目安です。
- ※アートクリートステンシルおよびデッキコートステンシルのカラーバリエーションは色調に差があります。

デッキコートステンシル



1
下地処理
施工現場清掃作業



2
施工場所を養生



3
下地処理剤の塗布
下地処理剤(純正レジン(40~50g/m²))を水で2~3倍希薄液)塗布。吹付ける合材との接着をよくするために均等に塗布して下さい。



4
ステンシル(型紙)の設置
ステンシルの設置。ツヤのある方が上です。



5
2列目のステンシルを設置するときは、前に設置したステンシルの端部と2列目のステンシル端部が重なり合うように設置して下さい。



6
ステンシルを固定
下地とステンシルの間にあまり隙間がないようにテープなので固定すると仕上がりがきれいです。



7
吹き付け用合材の作成
計量カップにて計量したレジンにパウダーを混入。混合割合はパウダー1袋に対しレジン4ℓを目安として下さい。



8
クリーム状になるまでよく攪拌
状況により、粘度の調整には水を少量使用して下さい。



9
ペースカラーの吹きつけ
吹き付け(パウダー1袋、レジン4ℓ)施工面積は約9.3m²です。
吹き付け作業は、基本的に下塗りとし仕上げ塗りの2工程です。
※施工方法により差が生じます。

<注意事項>

- ※外気温が5℃以下の場合は施工を避けて下さい。特に夜間、気温が下がる冬場にはご注意ください。
- ※良い仕上がりに施工するためには、下地の表面とデッキコートが接合しやすいように処理する必要があります。表面に付着しているもの(油・泥・カビ・ペンキ等の塗装)を適切な方法にて除去して下さい。
- ※また、デッキコートを施工する全ての表面は、希塩酸液(10%程度)で洗浄し、綺麗に水洗いして下さい。
- ※あらかじめ施工前にコンクリート下地のクラック・不陸の補修をしておいて下さい。
- ※新規打設のコンクリートに施工する場合、下地が完全乾燥している状態で行って下さい。
- ※風の強い日や降雨の予想される日には施工を避けることをおすすめします。
- ※施工後、車両が乗り入れするまでには十分養生期間を取って下さい。
- ※季節・天候・施工場所で差がありますが、生コンや色粉に含まれるアルカリ成分により表面に「白華」が出ることがあります。水分の影響が大きいと思われる。
 - 白華が多い場合:希塩酸で洗浄し、水洗いして十分乾燥後にシーラーを塗布して下さい。
 - 白華の少ない場合:シーラーを塗布することにより、かなり解消できます。
- ※吹付け施工は2回塗りをお願いします。(参考施工厚:約2~4mm)
- ※1回目の吹付けは、土間コンクリートの表面が見えなくなるように、全体に細かく吹付けて下さい。
- ※2回目の吹付けは、吹付けむらを調整しながら凹凸仕上げるように吹付けて下さい。
- ※吹付けガン器は、リシガン製のノズル部の自在型を使用して下さい。ノズル口径は、5・6・7mmが適合サイズです。
参考例:大塚刷毛製造株式会社(建築用吹付けガン器)



10 アクセントカラーの吹付け



11 吹付け完了



12 ステンシルを除去
塗料が乾いた段階でステンシルを除去します。



13 清掃
エアガン・フロアー等を使用して清掃。
※乾燥期間:
夏場1時間、冬場(10℃)3~4時間。

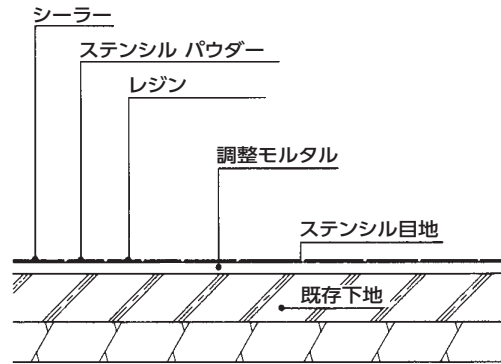


14 シーラーの塗布(2回塗りをお勧めします)
施工後、表面が完全に乾燥したらシーラーを刷毛もしくはローラーにて塗布して下さい。溶剤系のシーラーのため、塗布後はツヤがありますが、1週間くらいで落ち着きます。
※シーラーの養生期間:
シーラー塗布後(晴天時の状態で)
6時間以上養生して下さい。



15 完成
ステンシルパターン/アシュラスレイトN
ベースカラー/カメオN
アクセントカラー/デザートサンドN

施工断面図



白華防止剤についてのご案内

※施工要領手順【13】の後、白華防止剤を塗布し、完全乾燥させた後(目安時間:晴天時6時間以上)にシーラーを1回塗布して下さい。
(強度を出すために必ずシーラーを1回塗りして下さい。)
※気温が低く乾燥が遅い、特に冬場の施工では、表面が乾いていない状態で白華防止剤を塗布しても含侵しないため、エフロが発生する場合があります。

ステンシルシーラーの除去方法

施工要領



シーラー塗布済み



シーラー除去

シーラー除去剤をウエスに含ませ、シーラーを除去したい部分を軽く擦るようして拭き取って下さい。
(ローラーや刷毛では拭き取る事が出来ませんので、使用を避けて下さい。)
ウエスが汚れたら新しいものと交換して下さい。
(除去したシーラーで汚れたウエスのまま作業すると、取れたものが表面に再付着します)



シーラー除去後

ハイブメント

ステンシル白華の除去方法



白華の除去

シーラー除去剤をウエスに含ませ、白華が出ている部分を軽く擦るようして拭き取って下さい。
(ローラーや刷毛では拭き取る事が出来ませんので、使用を避けて下さい。)
ウエスが汚れたら新しいものと交換して下さい。
(除去したシーラーで汚れたウエスのまま作業すると、取れたものが表面に再付着します)



シーラー塗布

白華した部分を除去したら、シーラーを塗布して下さい。

※シーラー除去剤で白華が取れない場合は市販の白華除去剤をご使用下さい。

ステンシルの角欠け補修

施工要領

シーラー塗布前の場合



1 角欠け部分



2 レジン塗布
レジンを原液のまま補修部分に塗布して下さい。



3 補修剤の準備
施工されているカラーと同じ種類のもので補修剤を作ります。
[使用材料] デックコートステンシル用パウダー
 デックコートステンシル用レジン
施工されている現状の色調に合うようにレジンを調合して下さい。
アートクリートステンシル用のハードナーは、接着剤の含有量が少なく、補修用に不向きなため使用しないで下さい。



4 コテ仕上げ
[仕上げの際に使用するコテの種類]
アートクリートステンシルの場合…金コテで表面を均して下さい。
デックコートステンシルの場合…木コテ・プラスチックで表面を均して下さい。



5 シーラー塗布
欠け部分の補修が完了したら、シーラーを塗布して下さい。

シーラー塗布後の場合



1 角欠け部分



2 シーラーの除去



3 レジン塗布
レジンを原液のまま補修部分に塗布して下さい。



4 補修剤の準備
施工されているカラーと同じ種類のもので補修剤を作ります。
[使用材料] デックコートステンシル用パウダー
 デックコートステンシル用レジン
施工されている現状の色調に合うようにレジンを調合して下さい。
アートクリートステンシル用のハードナーは、接着剤の含有量が少なく、補修用に不向きなため使用しないで下さい。



5 コテ仕上げ
[仕上げの際に使用するコテの種類]
アートクリートステンシルの場合…金コテで表面を均して下さい。
デックコートステンシルの場合…木コテ・プラスチックで表面を均して下さい。



6 シーラー塗布
欠け部分の補修が完了したら、シーラーを塗布して下さい。

ハイブメント